

昭島市 市民意識調査

概要版

市民意識調査概要版は、平成 29 年 9 月に実施した「昭島市 市民意識調査」報告書を要約したものです。

< 調査の概要 >

- (1) 調査地域・・・昭島市全域
- (2) 調査対象・・・昭島市在住の満 16 歳以上の個人
- (3) 標本数・・・2,000 人（男女各 1,000 人）
- (4) 抽出方法・・・昭島市住民基本台帳に基づく層化二段無作為抽出法
- (5) 調査方法・・・郵送配布、郵送回収
- (6) 調査期間・・・平成 29 年 9 月 20 日（水）～平成 29 年 10 月 10 日（火）
- (7) 有効回収率・・・53.6%

< 調査項目 >

- | | |
|--------------|-------------|
| (1) 定住意向 | (10) 昭島の水道水 |
| (2) 昭島市への愛着度 | (11) 都市景観 |
| (3) 暮らしの満足度 | (12) 少子高齢化 |
| (4) 災害対策 | (13) 健康 |
| (5) 日常生活 | (14) 広報 |
| (6) 地域活動・自治会 | (15) 情報化 |
| (7) 生涯学習 | (16) 男女共同参画 |
| (8) 学校教育 | (17) 市政 |
| (9) 環境 | (18) 市役所 |

本概要版を見る際の注意事項

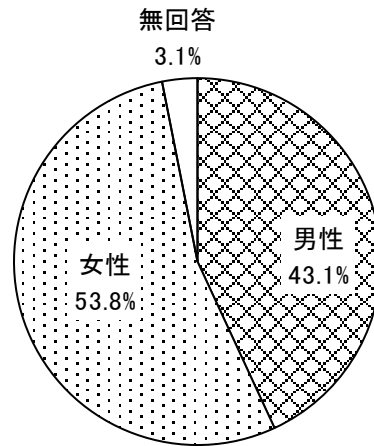
- (1) 集計は小数第 2 位を四捨五入して算出した。したがって、数値の合計が 100%にならない場合がある。
- (2) 回答の比率 (%) は、その設問の回答者数を基数 n として算出した。したがって、複数回答の設問は、すべての比率を合計すると 100%を超えることがある。
- (3) 本文やグラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
- (4) n (Number of Cases の略) は比率算出の基数であり、100%が何人の回答者数に相当するかを示す。

平成 30 年 2 月

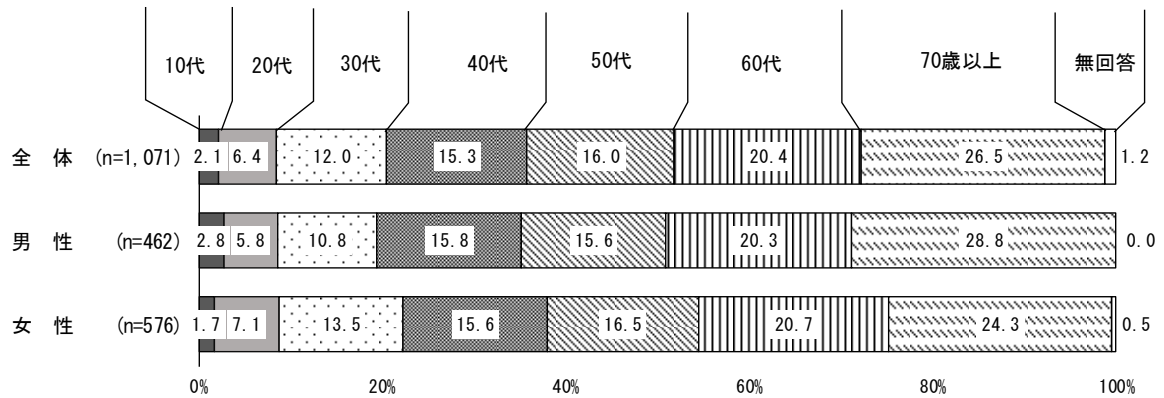
昭 島 市

<回答者の属性>

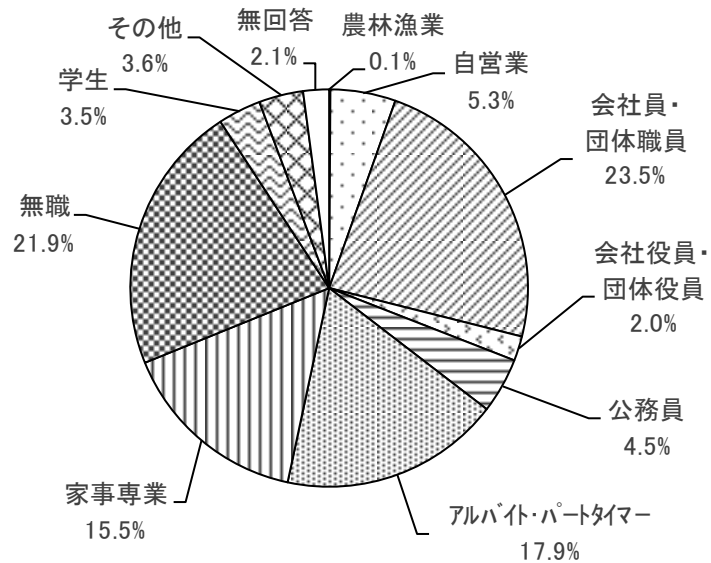
◆性別



◆性・年代別

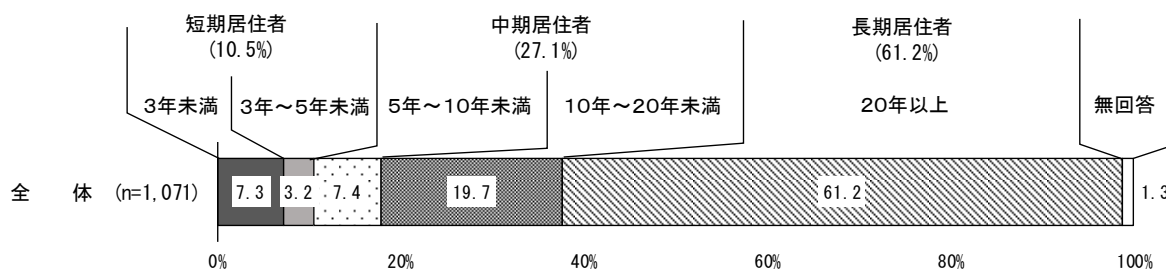


◆職業



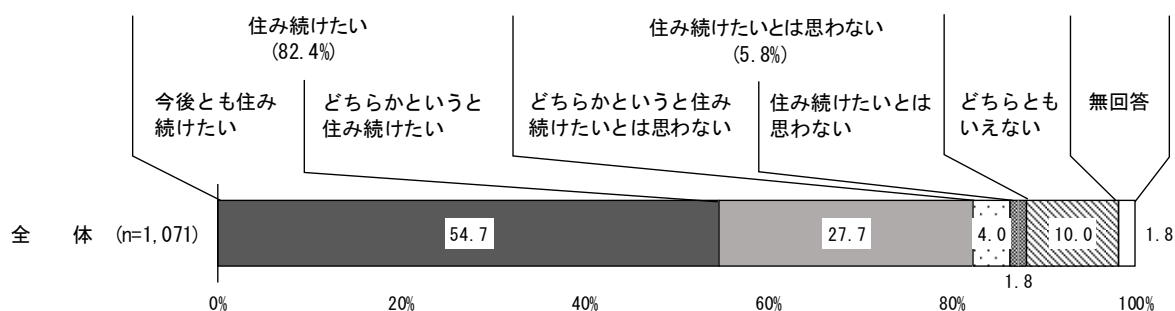
1. 定住意向

(1) 居住年数



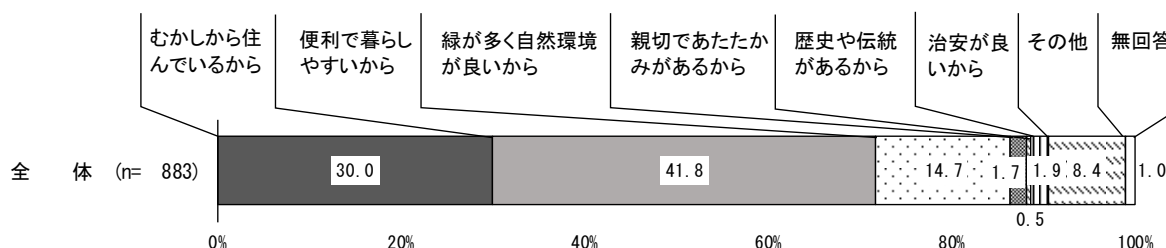
・「3年未満」(7.3%)と「3年～5年未満」(3.2%)を合わせた『短期居住者』(10.5%)が約1割、「5年～10年未満」(7.4%)と「10年～20年未満」(19.7%)を合わせた『中期居住者』(27.1%)が3割近くとなっている。「20年以上」の『長期居住者』(61.2%)は6割以上となっている。

(2) 定住意向



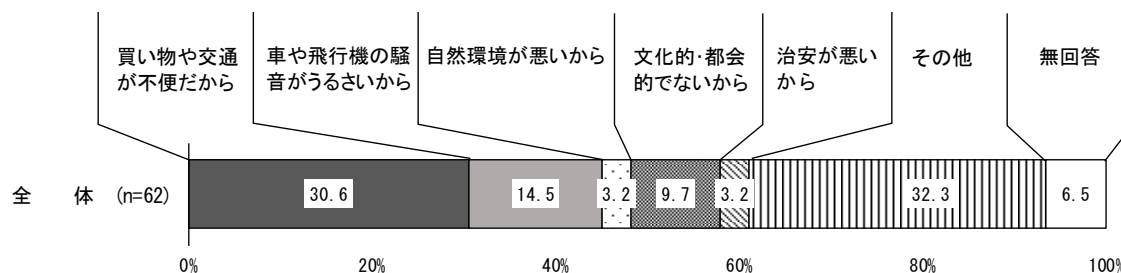
・「今後とも住み続けたい」(54.7%)と「どちらかという住み続けたい」(27.7%)を合わせた『住み続けたい』(82.4%)が8割以上となっている。また、「どちらかという住み続けたいとは思わない」(4.0%)と「住み続けたいとは思わない」(1.8%)を合わせた『住み続けたいとは思わない』(5.8%)は1割に満たない。また、「どちらともいえない」(10.0%)は1割となっている。

(3) 住み続けたい理由



・「便利で暮らしやすいから」(41.8%)が4割以上で最も多く、次いで、「むかしから住んでいるから」(30.0%)、「緑が多く自然環境が良いから」(14.7%)の順となっている。

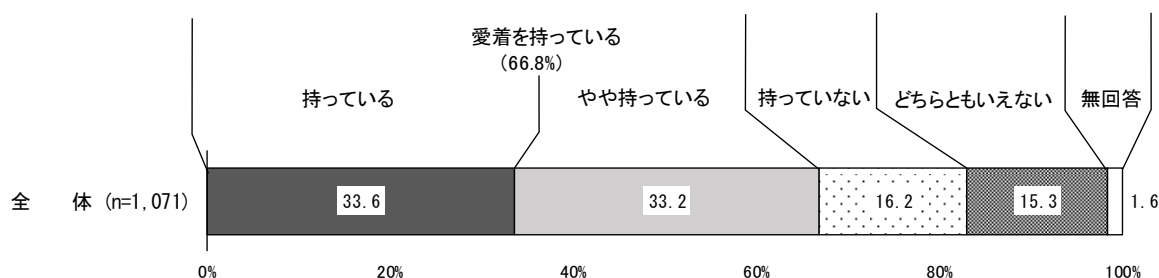
(4) 住み続けたいと思わない理由



・「买东西や交通が不便だから」(30.6%) が約3割で最も多く、次いで、「車や飛行機の騒音がうるさいから」(14.5%)、「文化的・都会的でないから」(9.7%)、「自然的環境が悪いから」と「治安が悪いから」(ともに3.2%)の順となっている。また、「その他」(32.3%)の中では「道路の整備が悪い」、「会社から遠い」、「実家に戻る予定」などがある。

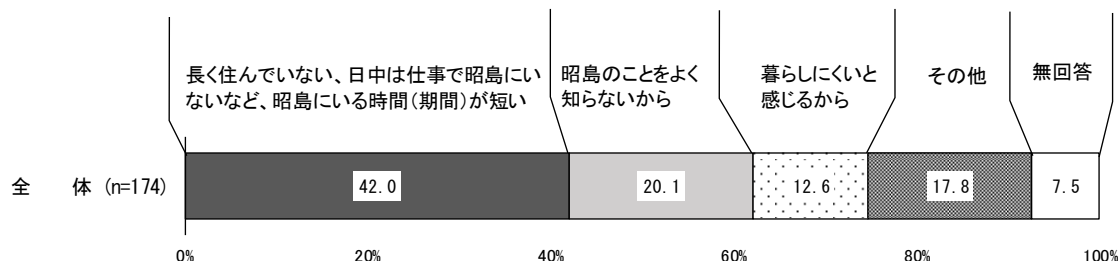
2. 昭島市への愛着度

(1) ふるさととしての愛着度



・「持っている」(33.6%)と「やや持っている」(33.2%)を合わせた『愛着を持っている』(66.8%)が7割近くとなっている。

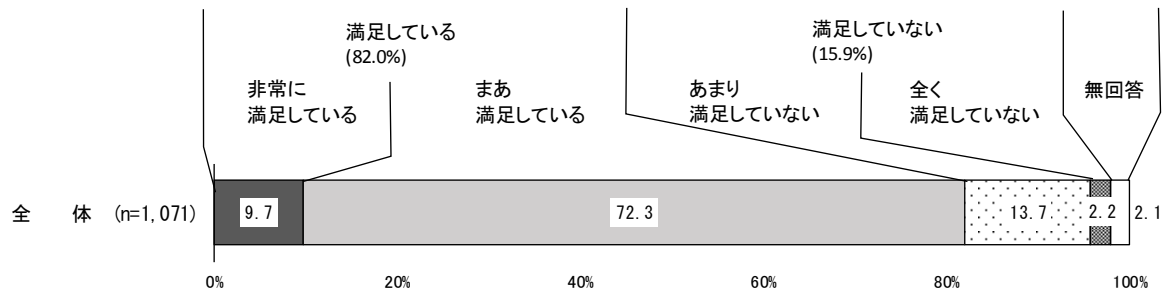
(2) 親しみや愛着を持っていない理由



・「長く住んでいない、日中は仕事で昭島にいないなど、昭島にいる時間(期間)が短い」(42.0%)が4割以上と最も多く、次いで、「昭島のことをよく知らないから」(20.1%)、「暮らしにくいと感じるから」(12.6%)の順となっている。また、「その他」(17.8%)の中では「生まれ育ったところなどふるさとが別にある」、「魅力がない、思い入れがない」などがある。

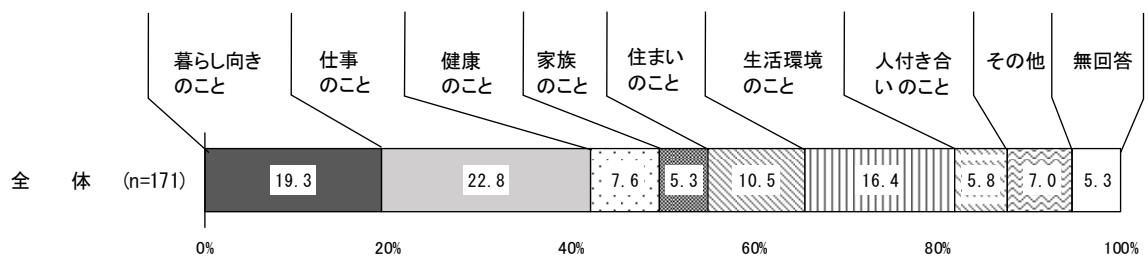
3. 暮らしの満足度

(1) 暮らしの満足度



・「まあ満足している」(72.3%) が最も多く、「非常に満足している」(9.7%) と合わせた『満足している』(82.0%) は8割以上となっている。一方、「あまり満足していない」(13.7%) と「全く満足していない」(2.2%) を合わせた『満足していない』(15.9%) は1割半ばとなっている。

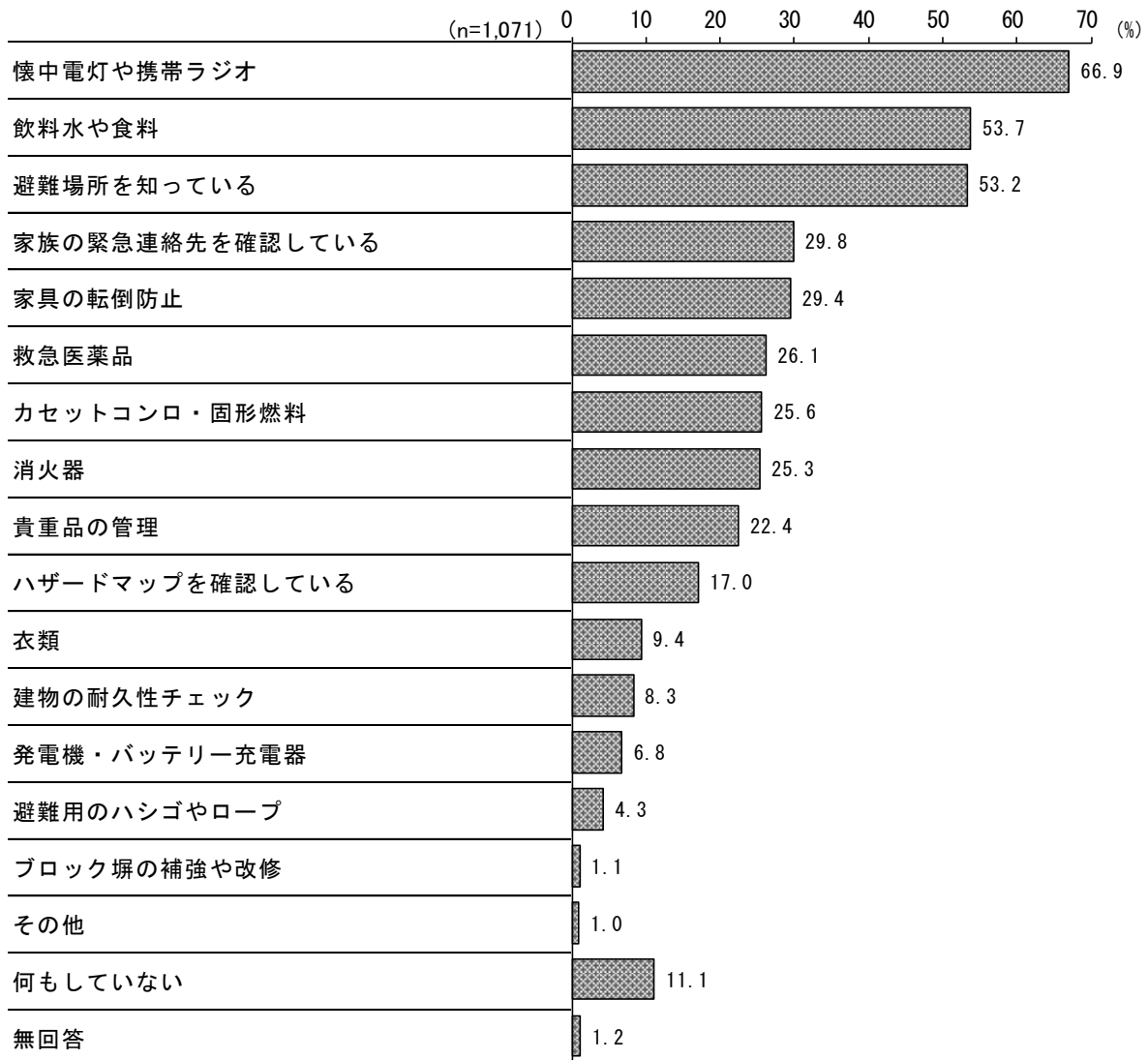
(2) 満足していない理由



・「仕事のこと」(22.8%) が最も多く、次いで、「暮らし向きのこと」(19.3%)、「生活環境のこと」(16.4%)、「住まいのこと」(10.5%) の順に多くなっている。

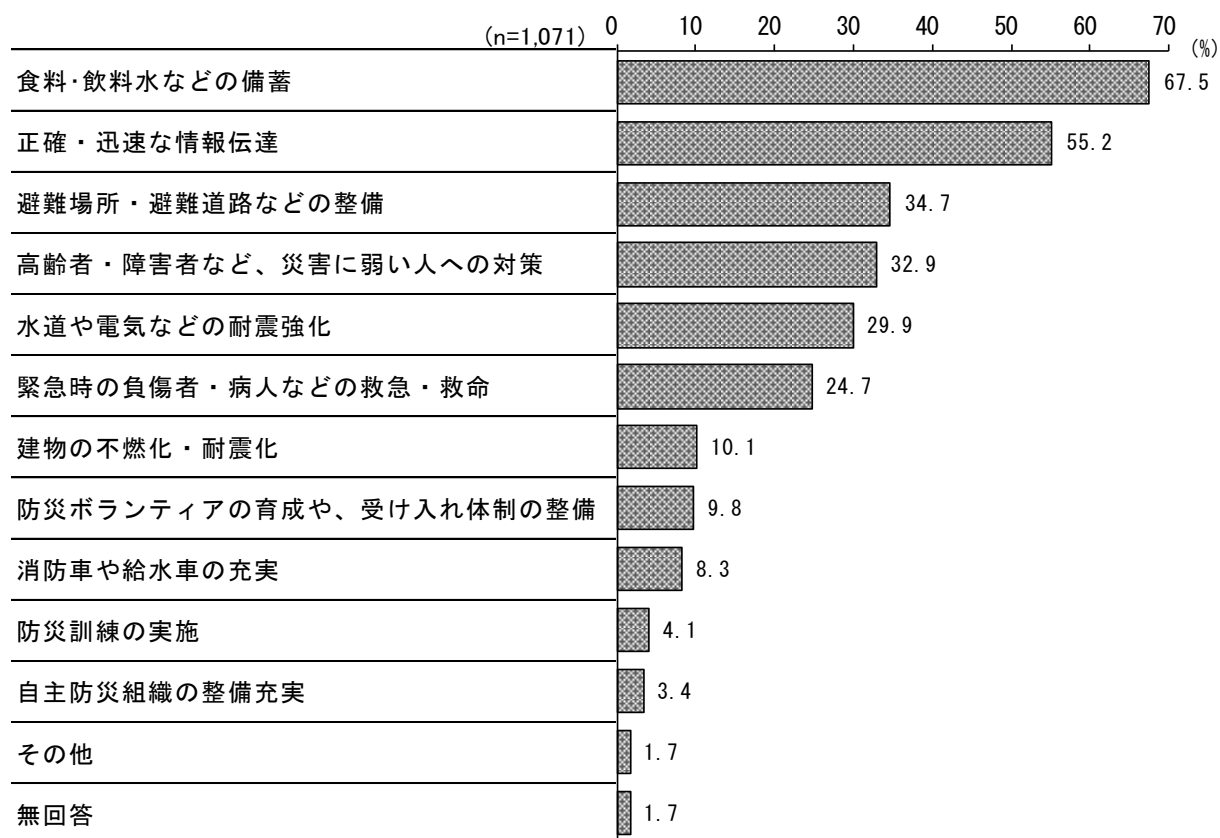
4. 災害対策

(1) 災害に対する備え



・「懐中電灯や携帯ラジオ」(66.9%) が7割近くと最も多くなっている。次いで、「飲料水や食料」(53.7%)、「避難場所を知っている」(53.2%)、「家族の緊急連絡先を確認している」(29.8%)、「家具の転倒防止」(29.4%)、「救急医薬品」(26.1%)、「カセットコンロ・固形燃料」(25.6%)、「消火器」(25.3%)、「貴重品の管理」(22.4%)の順に多くなっている。

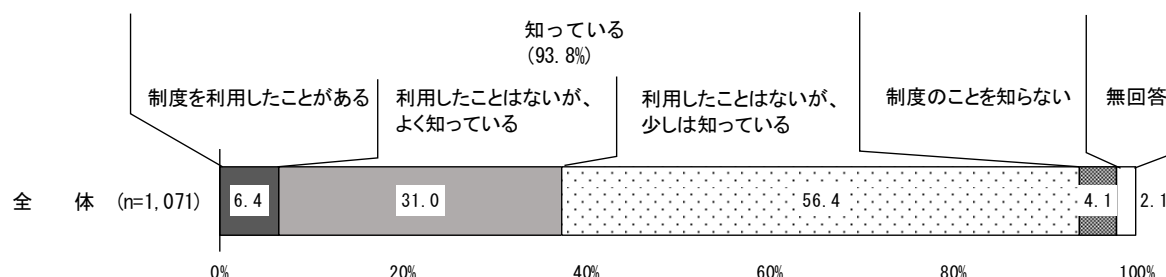
(2) 市が災害対策としてすべきこと



・「食料・飲料水などの備蓄」(67.5%)が7割近くを占めている。次いで、「正確・迅速な情報伝達」(55.2%)、「避難場所・避難道路などの整備」(34.7%)、「高齢者・障害者など、災害に弱い人への対策」(32.9%)、「水道や電気などの耐震強化」(29.9%)、「緊急時の負傷者・病人などの救急・救命」(24.7%)の順に多くなっている。

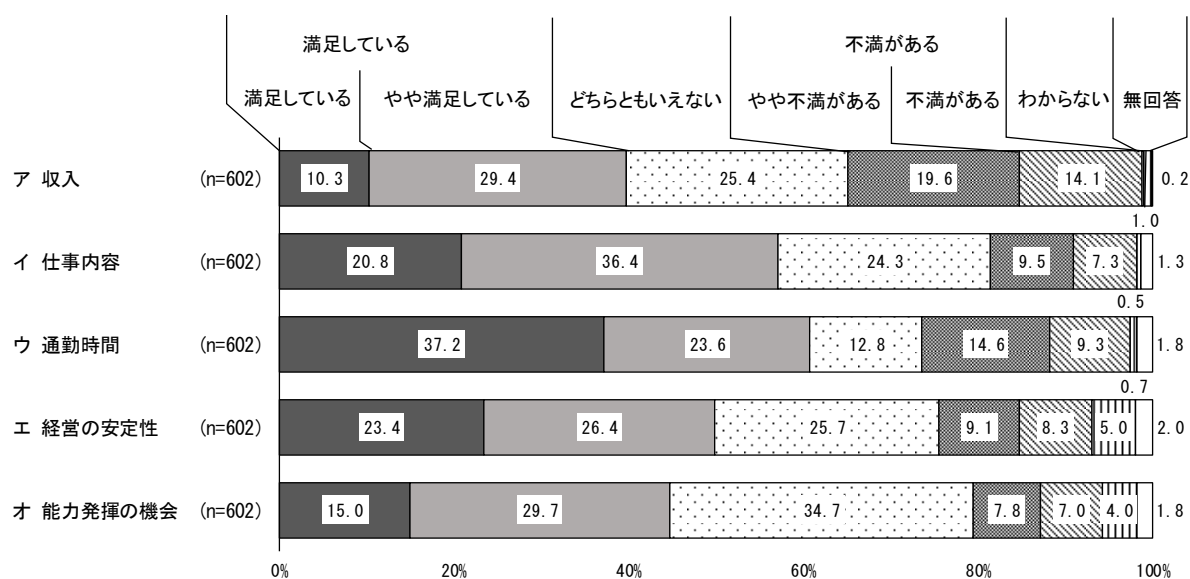
5. 日常生活

(1) クーリング・オフ制度の認知度



・「利用したことはないが、少しは知っている」(56.4%)が6割近くで最も多くなっている。次いで、「利用したことはないが、よく知っている」(31.0%)、「制度を利用したことがある」(6.4%)の順となっている。また、これらを合わせた『知っている』(93.8%)は9割以上と認知度は高くなっている。

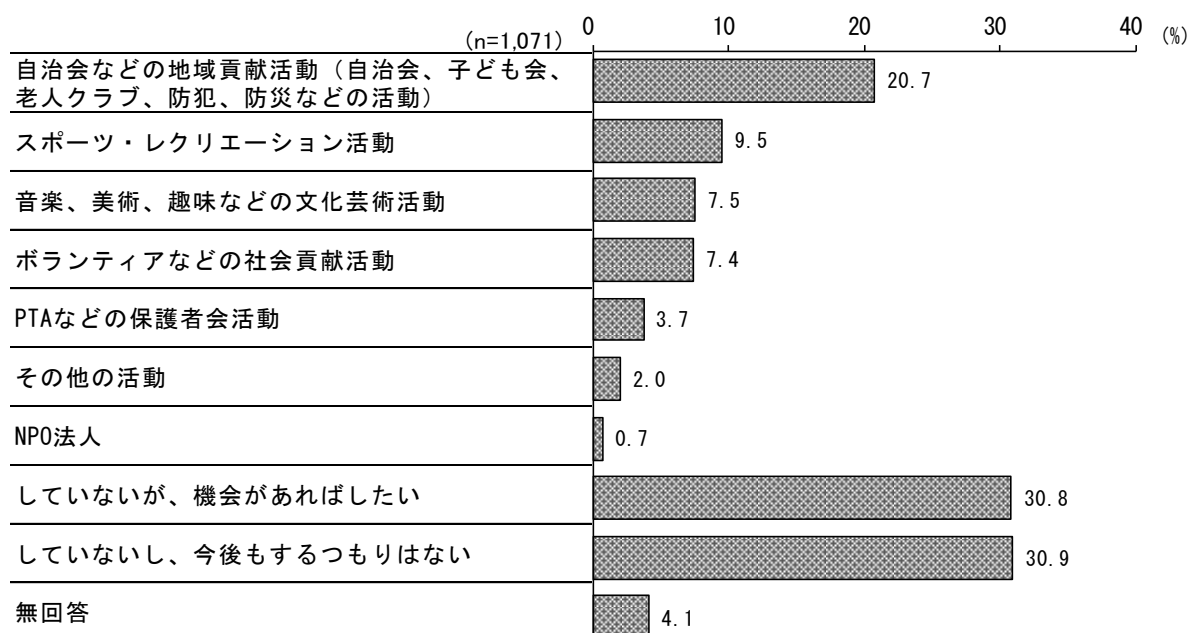
(2) 仕事の満足度



「満足している」と「やや満足している」を合わせた『満足している』は【通勤時間】(60.8%)が約6割で最も多くなっている。次いで、【仕事の内容】(57.2%)、【経営の安定性】(49.8%)の順となっている。

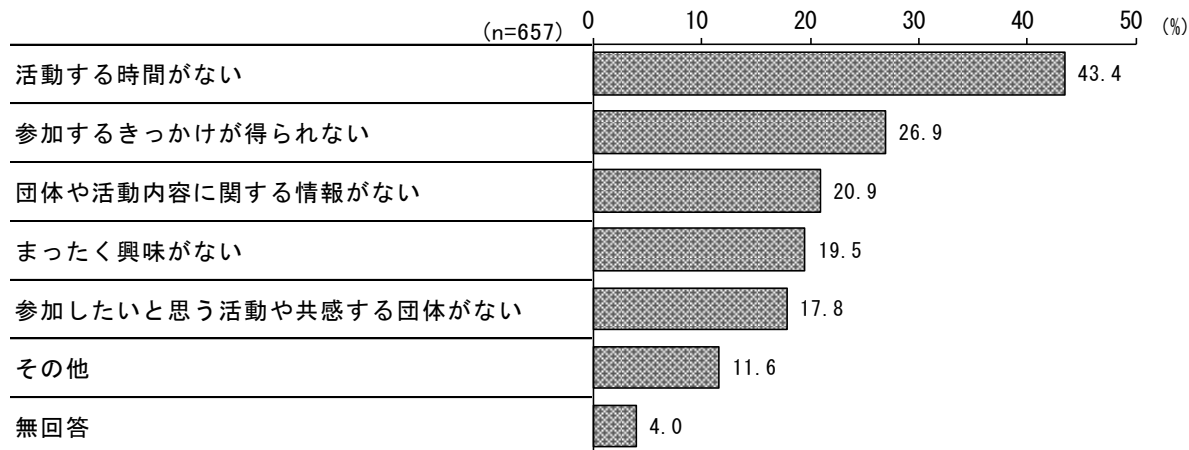
6. 地域活動・自治会

(1) 行っている地域活動



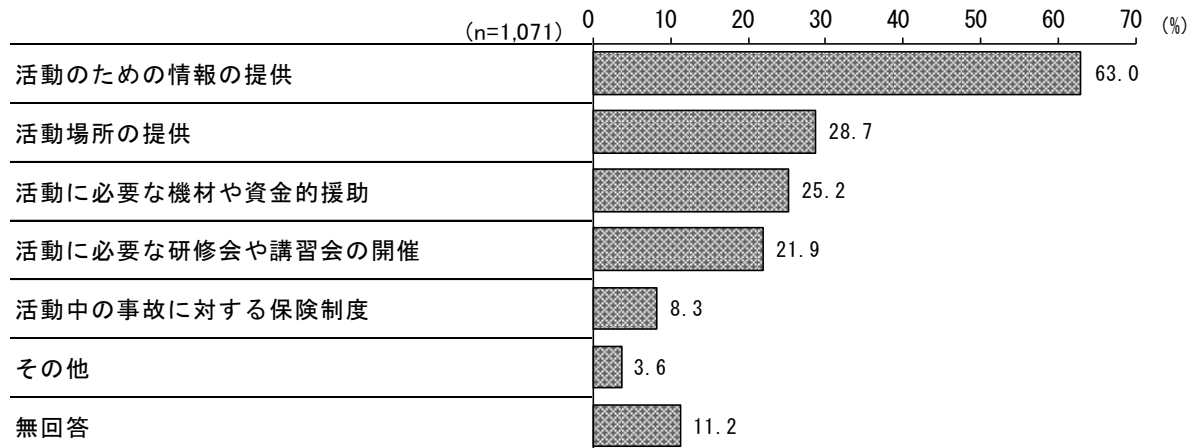
・「自治会などの地域貢献活動」(20.7%)が最も多くなっている。次いで、「スポーツ・レクリエーション活動」(9.5%)、「音楽、美術、趣味などの文化芸術活動」(7.5%)、「ボランティアなどの社会貢献活動」(7.4%)などとなっている。また、「していないが、機会があればしたい」(30.8%)、「していないし、今後もするつもりはない」(30.9%)は約3割となっている。

(2) 地域活動に参加できない要因



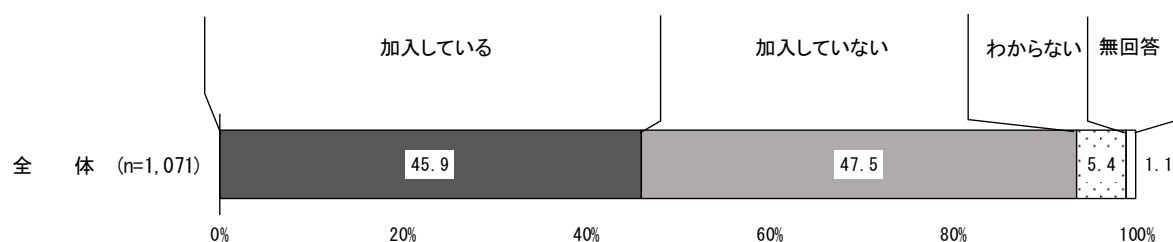
・「活動する時間がない」(43.4%)が4割以上で最も多くなっている。次いで、「参加するきっかけが得られない」(26.9%)、「団体や活動内容に関する情報がない」(20.9%)、「まったく興味がない」(19.5%)、「参加したいと思う活動や共感する団体がない」(17.8%)の順となっている。

(3) 地域活動を推進するために市が力を入れるべきこと



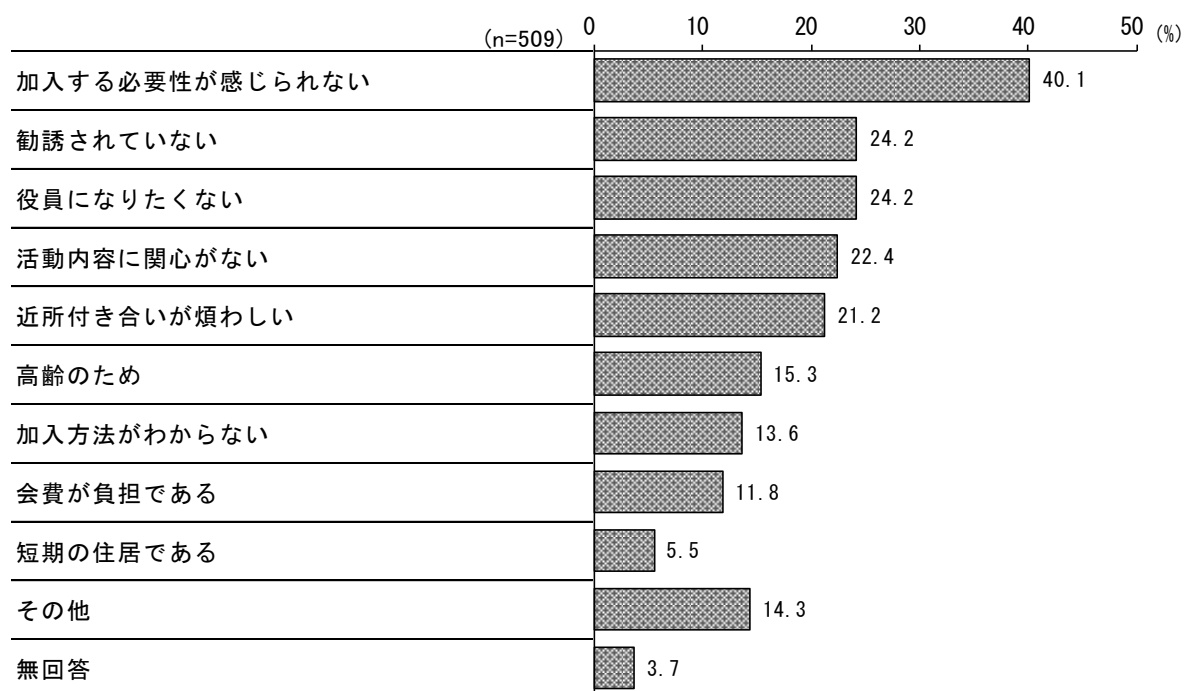
・「活動のための情報の提供」(63.0%)が6割以上と最も多くなっている。次いで、「活動場所の提供」(28.7%)、「活動に必要な機材や資金的援助」(25.2%)、「活動に必要な研修会や講習会の開催」(21.9%)、「活動中の事故に対する保険制度」(8.3%)の順となっている。

(4) 自治会への加入状況



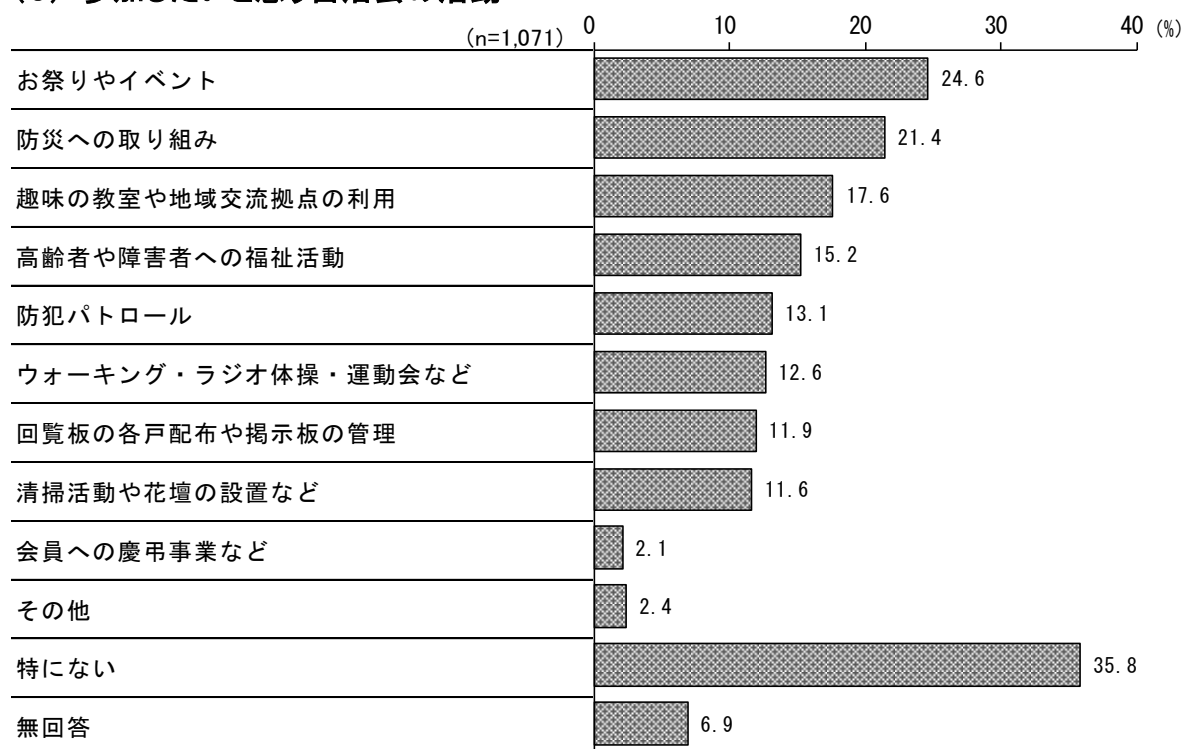
・「加入している」(45.9%)は4割半ばとなっている。一方、「加入していない」(47.5%)は5割近くであった。

(5) 自治会に加入していない理由



・「加入する必要性を感じられない」(40.1%) が約4割と最も多くなっている。次いで、「勧誘されていない」と「役員になりたくない」(ともに24.2%)、「活動内容に関心がない」(22.4%)、「近所付き合いが煩わしい」(21.2%)、「高齢のため」(15.3%)などの順に多くなっている。

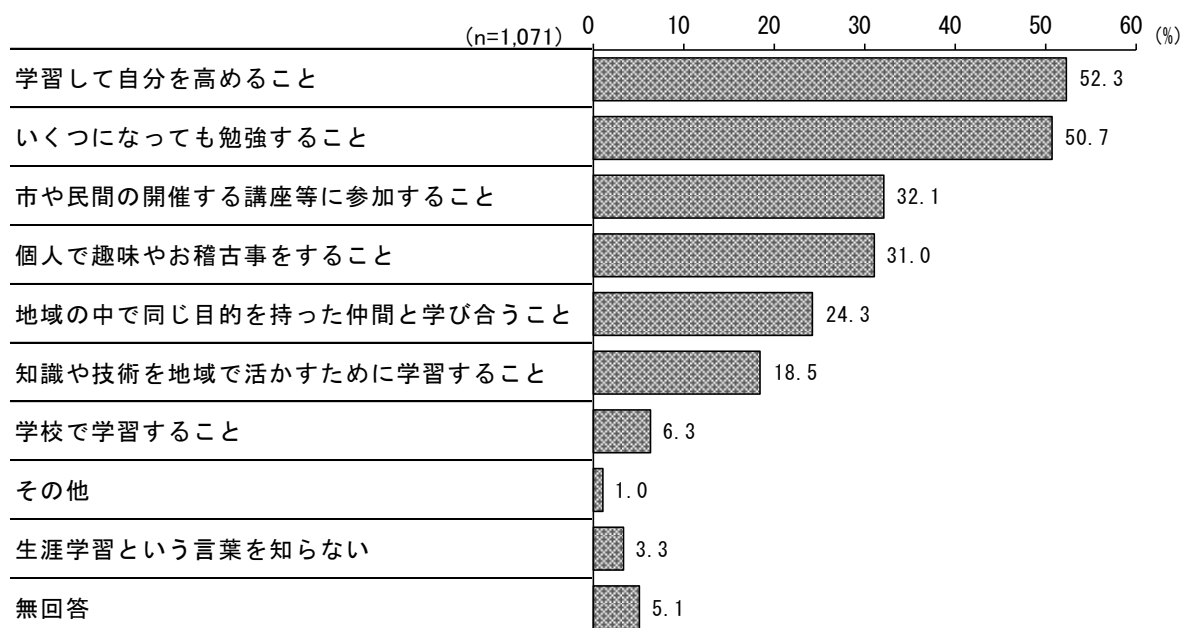
(6) 参加したいと思う自治会の活動



・「お祭りやイベント」(24.6%) が2割半ばで最も多くなっている。次いで、「防災への取り組み」(21.4%)、「趣味の教室や地域交流拠点の利用」(17.6%)、「高齢者や障害者への福祉活動」(15.2%)、「防犯パトロール」(13.1%)、「ウォーキング・ラジオ体操・運動会など」(12.6%)の順に多くなっている。一方、「特にない」(35.8%)が3割半ばとなっている。

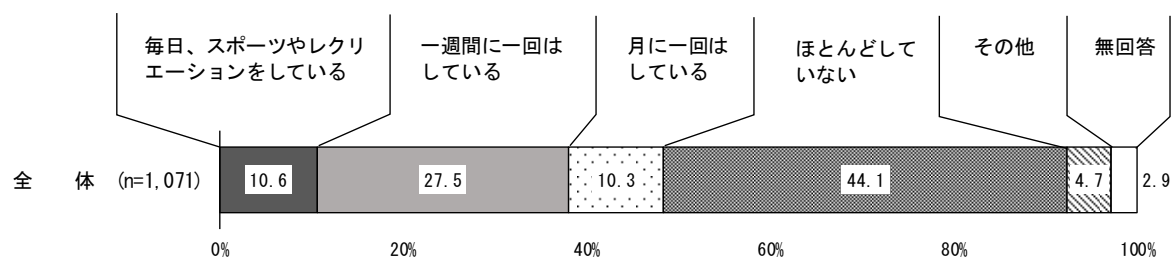
7. 生涯学習

(1) 生涯学習の言葉のイメージ



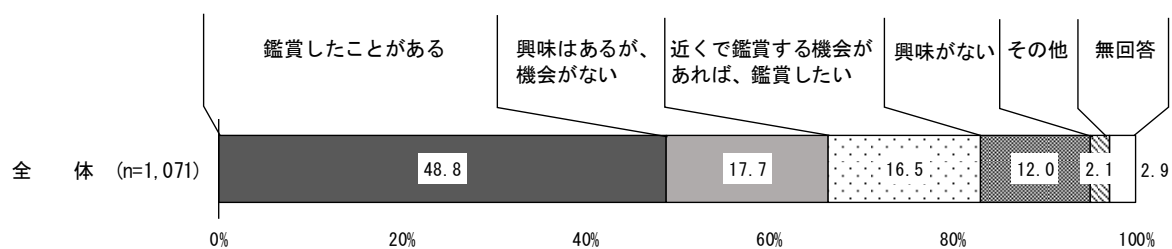
・「学習して自分を高めること」(52.3%)が最も多く、次いで、「いくつになっても勉強すること」(50.7%)、「市や民間の開催する講座等に参加すること」(32.1%)、「個人で趣味やお稽古事をする」(31.0%)、「地域の中で同じ目的を持った仲間と学び合うこと」(24.3%)などの順となっている。

(2) スポーツやレクリエーションの頻度



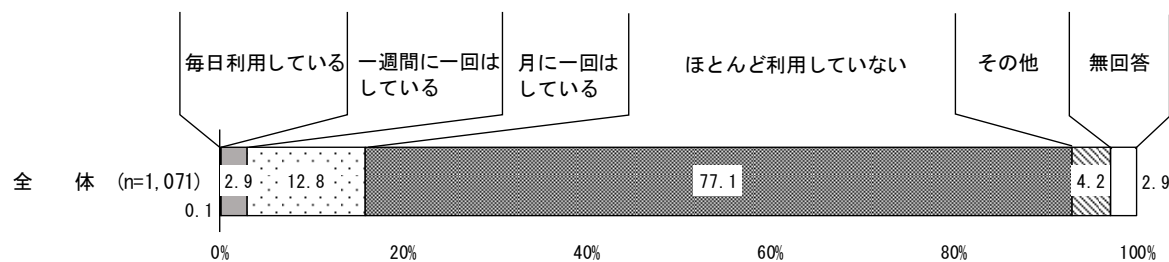
・「ほとんどしていない」(44.1%)が4割半ばと最も多くなっている。次いで、「一週間に一回はしている」(27.5%)、「毎日、スポーツやレクリエーションをしている」(10.6%)、「月に一回はしている」(10.3%)の順となっている。

(3) 音楽・演劇・美術の鑑賞



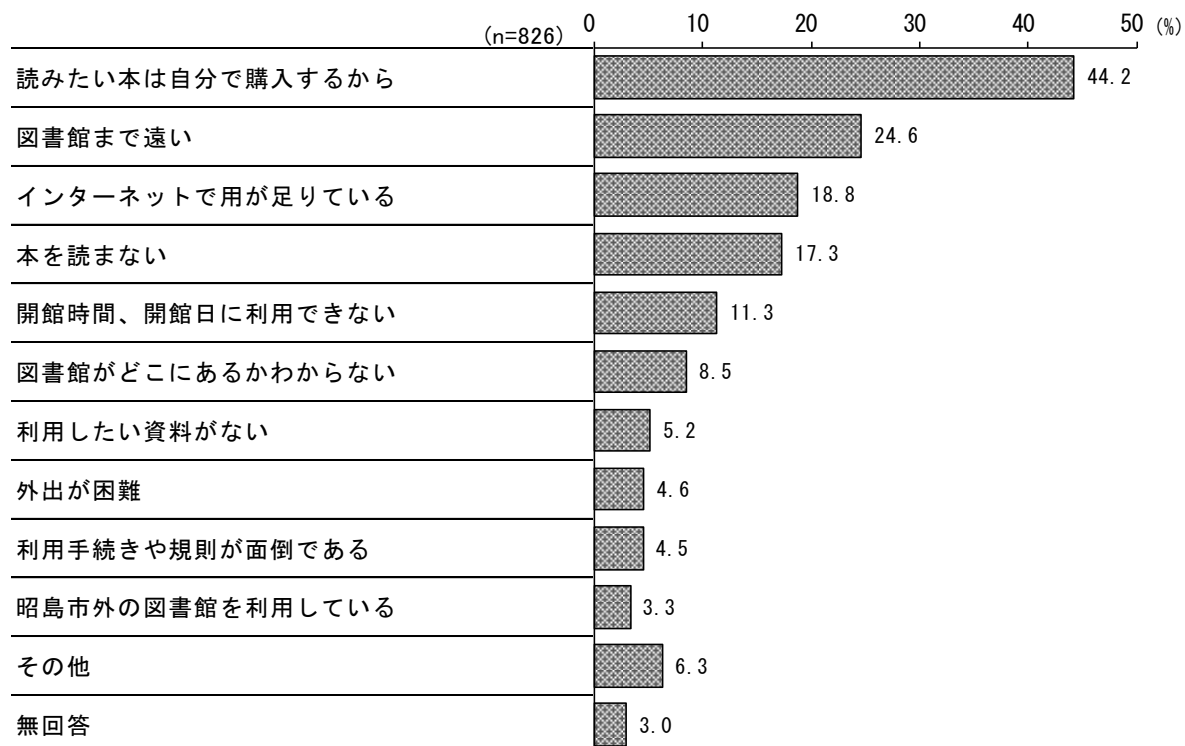
・「鑑賞したことがある」(48.8%)が5割近くと最も多くなっている。次いで、「興味はあるが、機会がない」(17.7%)、「近くで鑑賞する機会があれば、鑑賞したい」(16.5%)、「興味がない」(12.0%)の順となっている。

(4) 図書館の利用頻度



・「ほとんど利用していない」(77.1%)が8割近くで最も多くなっている。次いで、「月に一回はしている」(12.8%)、「一週間に一回はしている」(2.9%)、「毎日利用している」(0.1%)の順となっている。

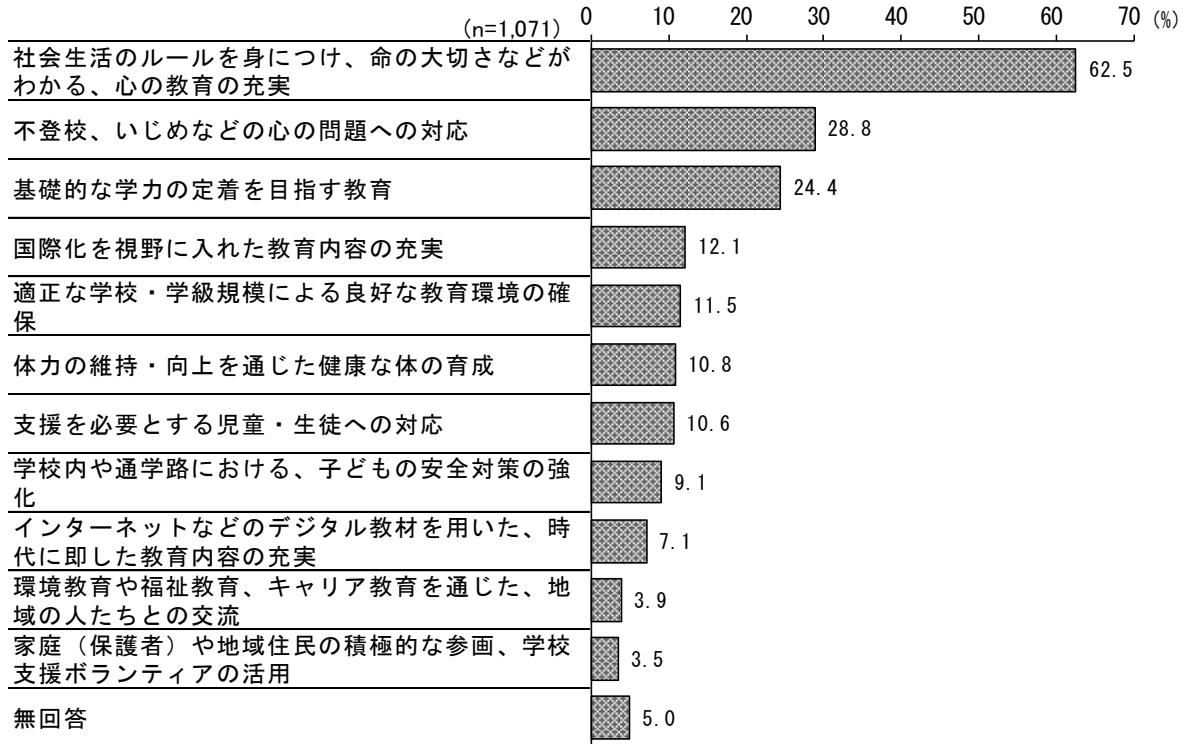
(5) 図書館を利用していない理由



・「読みたい本は自分で購入するから」(44.2%)、「図書館まで遠い」(24.6%)、「インターネットで用が足りている」(18.8%)、「本を読まない」(17.3%)、「開館時間、開館日に利用できない」(11.3%)、「図書館がどこにあるかわからない」(8.5%)などの順で多くなっている。

8. 学校教育

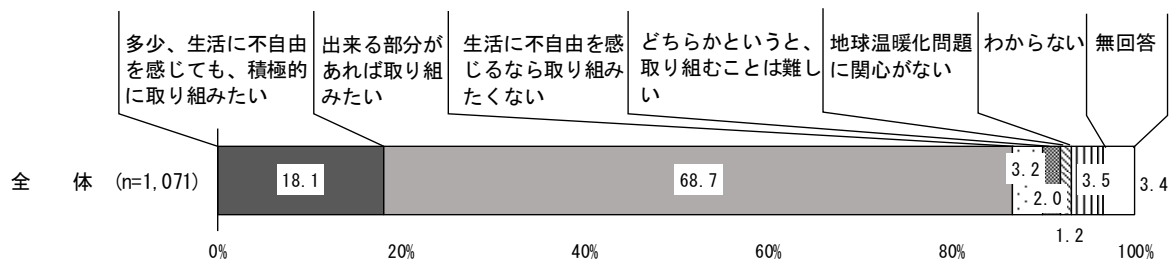
(1) 学校教育の充実のために力を入れるべきこと



・「社会生活のルールを身につけ、命の大切さなどがわかる、心の教育の充実」（62.5%）が6割以上と最も多くなっている。次いで、「不登校、いじめなどの心の問題への対応」（28.8%）、「基礎的な学力の定着を目指す教育」（24.4%）、「国際化を視野に入れた教育内容の充実」（12.1%）、「適正な学校・学級規模による良好な教育環境の確保」（11.5%）、「体力の維持・向上を通じた健康な体の育成」（10.8%）などの順で多くなっている。

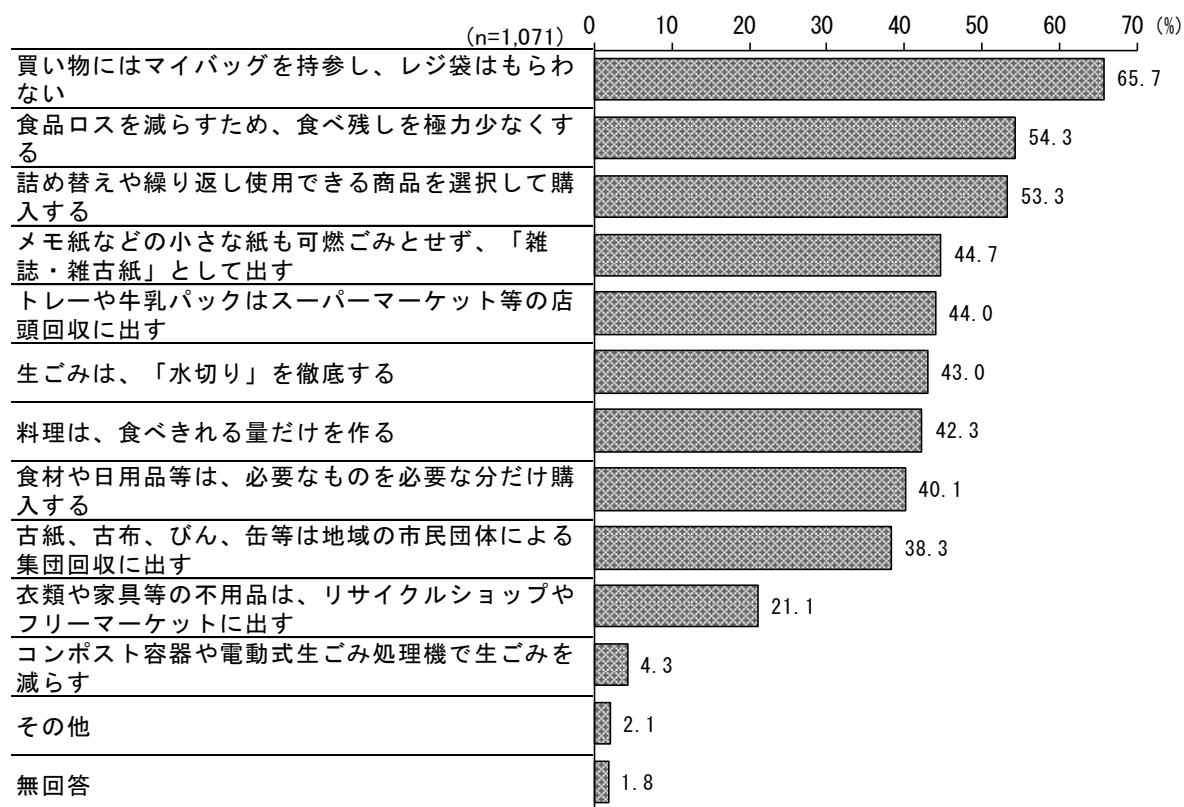
9. 環境

(1) 地球温暖化問題への関心



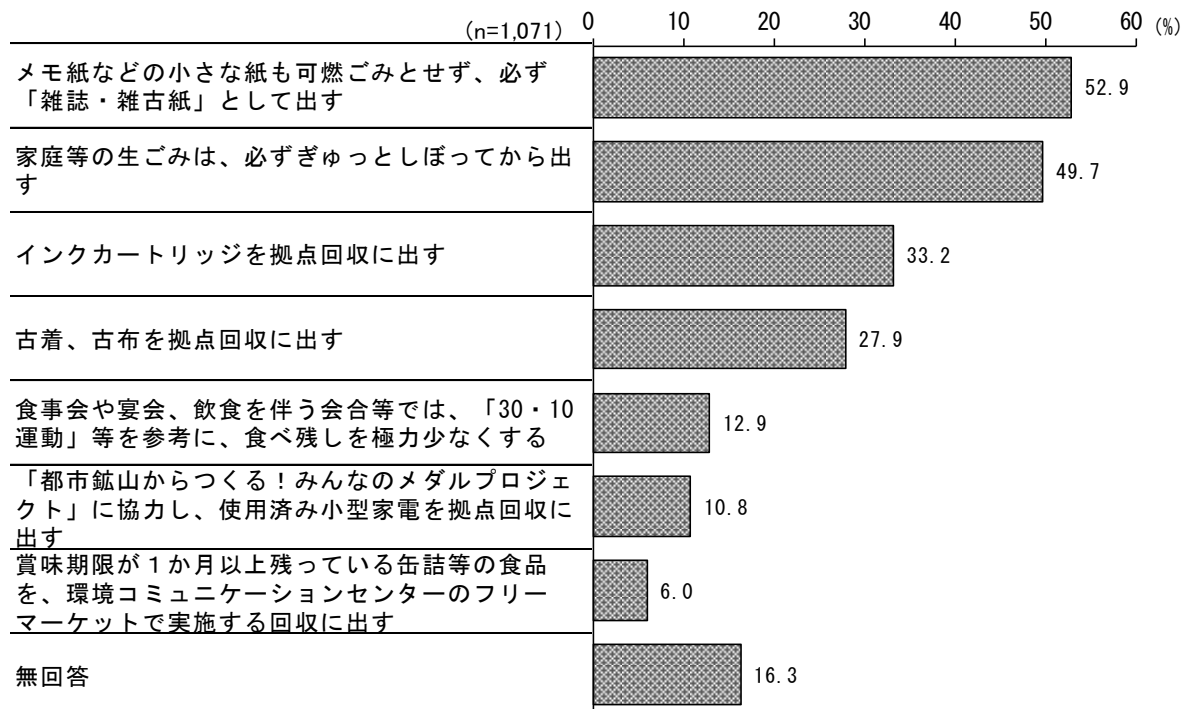
・「出来る部分があれば取り組みたい」（68.7%）が7割近くと最も多くなっている。次いで、「多少、生活に不自由を感じても、積極的に取り組みたい」（18.1%）が2割近くとなっている。

(2) ごみ減量化への取り組み



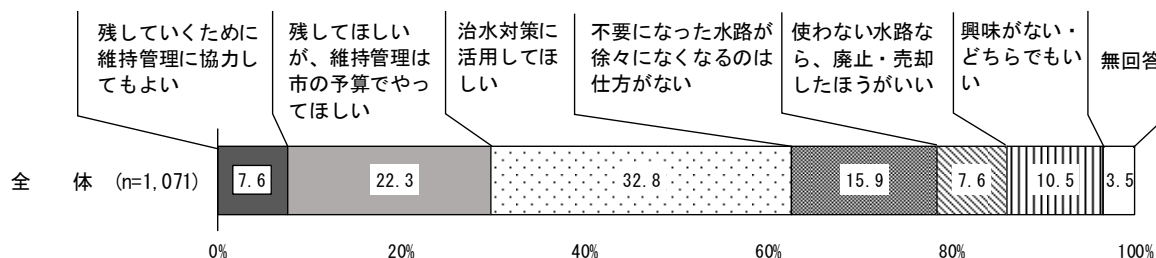
・「買い物にはマイバッグを持参し、レジ袋はもらわない」(65.7%)が6割半ばで最も多くなっている。次いで、「食品ロスを減らすため、食べ残しを極力少なくする」(54.3%)、「詰め替えや繰り返し使用できる商品を選択して購入する」(53.3%)、「メモ紙などの小さな紙も可燃ごみとせず、「雑誌・雑古紙」として出す」(44.7%)、「トレーや牛乳パックはスーパーマーケット等の店頭回収に出す」(44.0%)、「生ごみは、「水切り」を徹底する」(43.0%)、「料理は、食べきれぬ量だけを作る」(42.3%)などの順で多くなっている。

(3) 市が願っているごみ減量化への取り組みの認知度



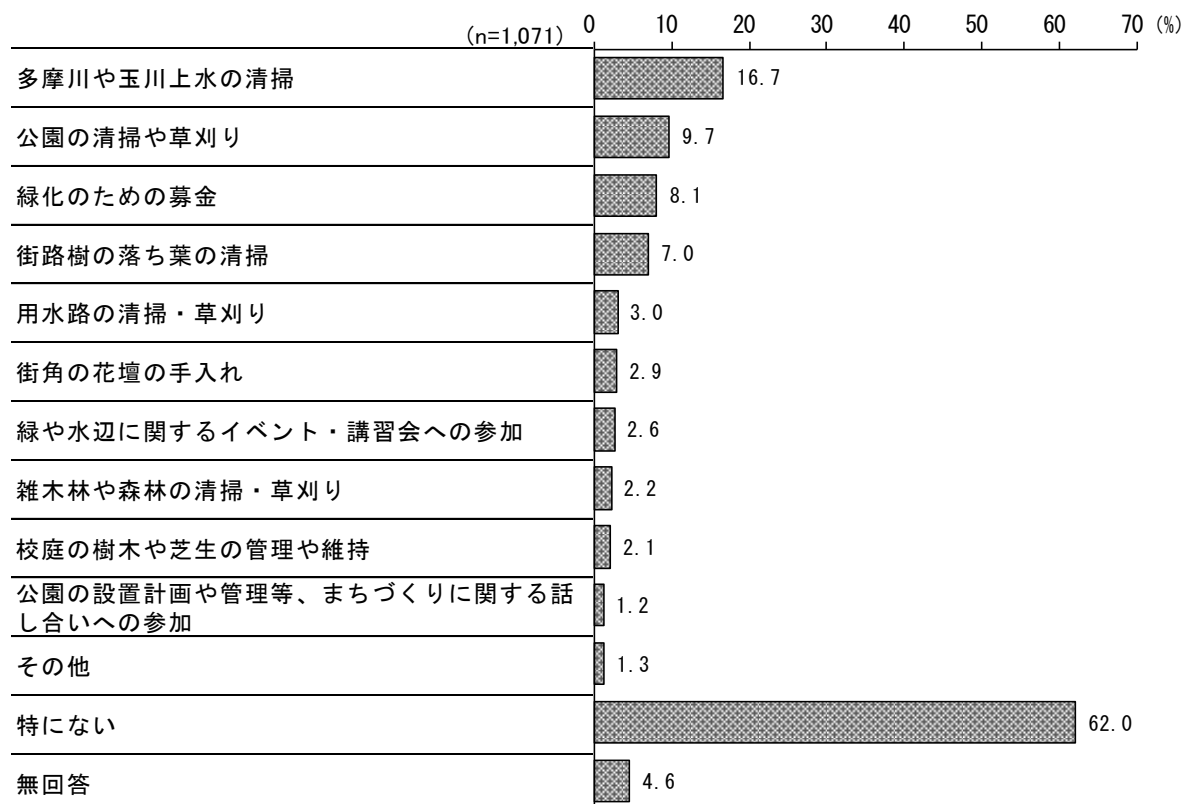
・「メモ紙などの小さな紙も可燃ごみとせず、必ず「雑誌・雑古紙」として出す」(52.9%)が5割以上で最も多くなっている。次いで、「家庭等の生ごみは、必ずぎゅっとしぼってから出す」(49.7%)、「インクカートリッジを拠点回収に出す」(33.2%)、「古着、古布を拠点回収に出す」(27.9%)、「食事会や宴会、飲食を伴う会合等では、「30・10運動」等を参考に、食べ残しを極力少なくする」(12.9%)、「「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」に協力し、使用済み小型家電を拠点回収に出す」(10.8%)、「賞味期限が1か月以上残っている缶詰等の食品を、環境コミュニケーションセンターのフリーマーケットで実施する回収に出す」(6.0%)の順で多くなっている。

(4) 農業用水路への関心



・「治水対策に活用してほしい」(32.8%)が3割以上と最も多くなっている。次いで、「残してほしいが、維持管理は市の予算でやってほしい」(22.3%)、「不要になった水路が徐々になくなるのは仕方がない」(15.9%)、「興味がない・どちらでもいい」(10.5%)「残していくために維持管理に協力してもよい」と「使わない水路なら、廃止・売却したほうがよい」(ともに7.6%)の順となっている。

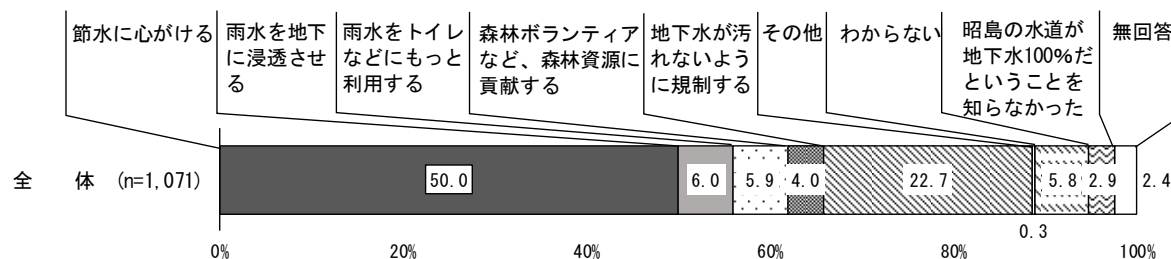
(5) 水と緑に関する市民活動



・「多摩川や玉川上水の清掃」(16.7%)が2割近くと最も多く、次いで「公園の清掃や草刈り」(9.7%)、「緑化のための募金」(8.1%)、「街路樹の落ち葉の清掃」(7.0%)、「用水路の清掃・草刈り」(3.0%)などの順で多くなっている。

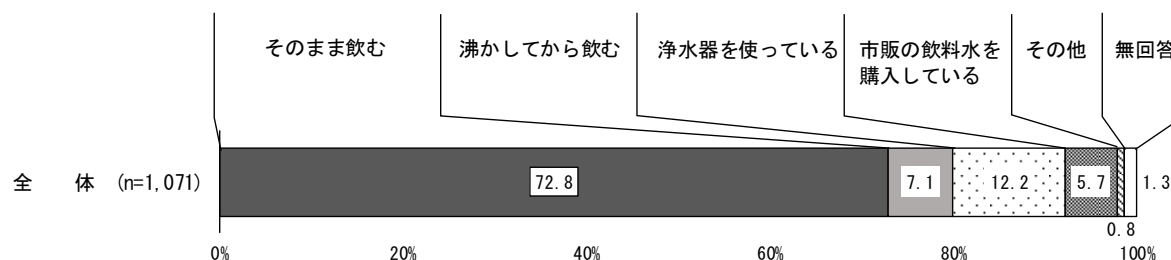
10. 昭島の水道水

(1) 水道水に対する関心



・「節水に心がける」(50.0%)が5割と最も多くなっている。次いで、「地下水が汚れないように規制する」(22.7%)、「雨水を地下に浸透させる」(6.0%)、「雨水をトイレなどにもっと利用する」(5.9%)などの順で多くなっている。一方、「昭島の水道が地下水100%だということを知らなかった」(2.9%)が少ないことから、地下水100%の認知度は高いと言える。

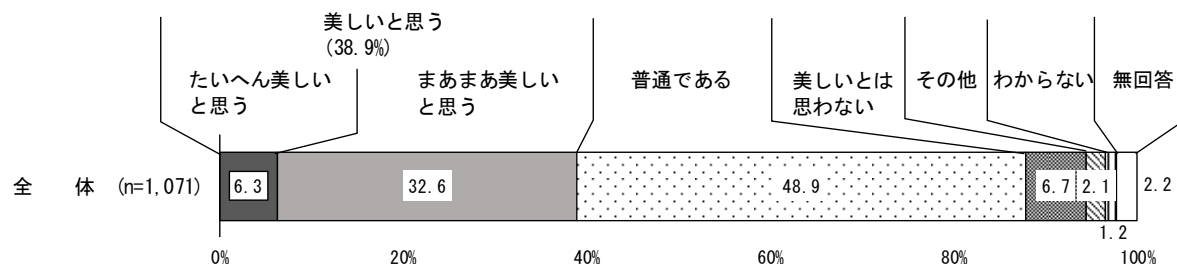
(2) 水道水の飲用状況



・「そのまま飲む」(72.8%)が7割以上と最も多くなっている。次いで、「浄水器を使っている」(12.2%)、「沸かしてから飲む」(7.1%)、「市販の飲料水を購入している」(5.7%)の順となっている。

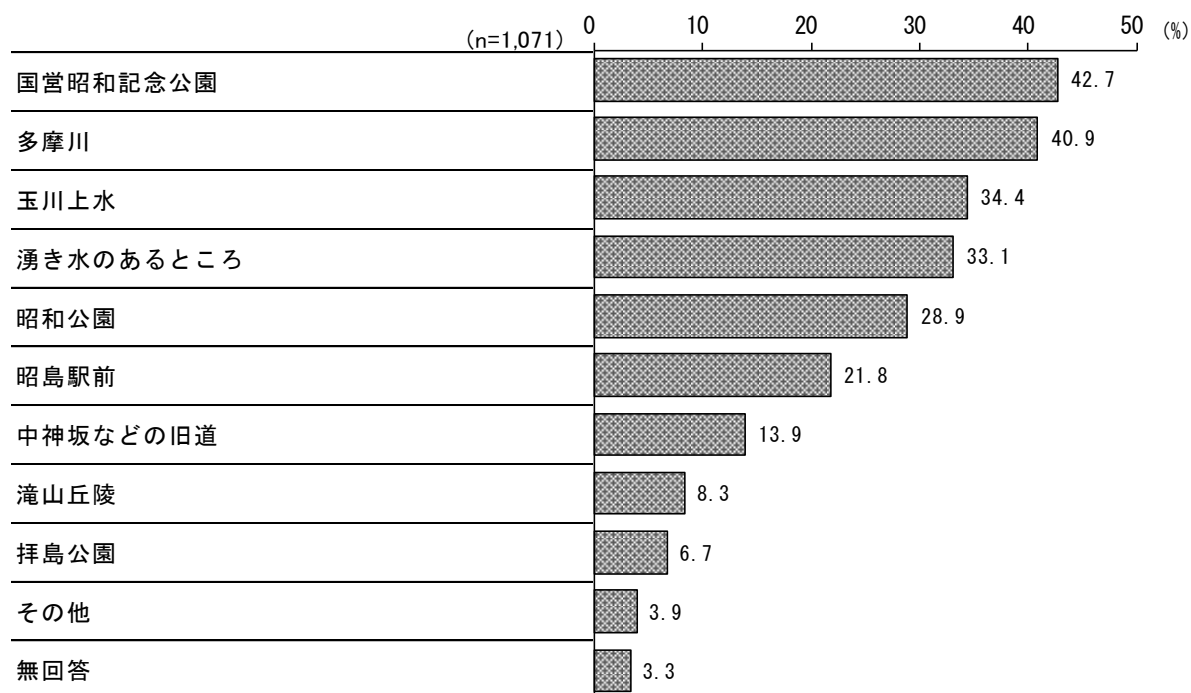
11. 都市景観

(1) 街並みの美しさに対する意識



・「普通である」(48.9%)が5割近くと最も多くなっている。また、「たいへん美しいと思う」(6.3%)と「まあまあ美しいと思う」(32.6%)を合わせた『美しいと思う』(38.9%)は4割近くとなっている。

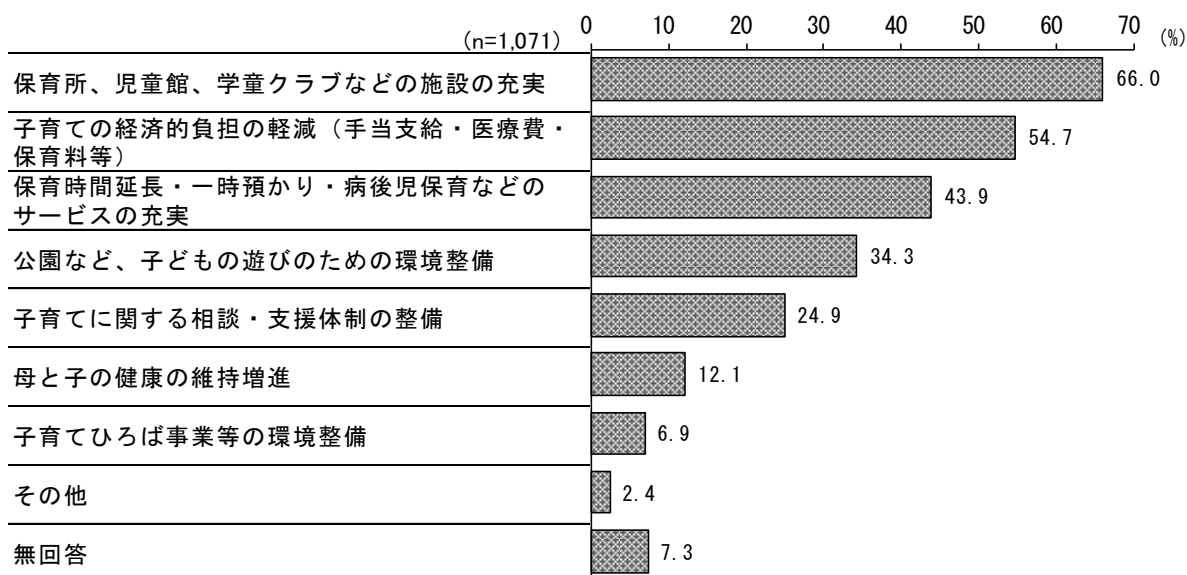
(2) 昭島らしい街並みや景観



・「国営昭和記念公園」(42.7%)が4割以上で最も多い。次いで「多摩川」(40.9%)、「玉川上水」(34.4%)、「湧き水のあるところ」(33.1%)、「昭和公園」(28.9%)、「昭島駅前」(21.8%)の順に多くなっている。

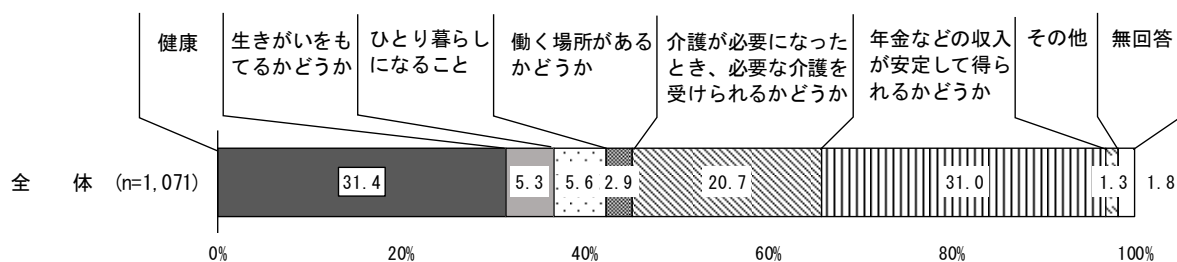
12. 少子高齢化

(1) 子育てをしやすい環境作りに必要なこと



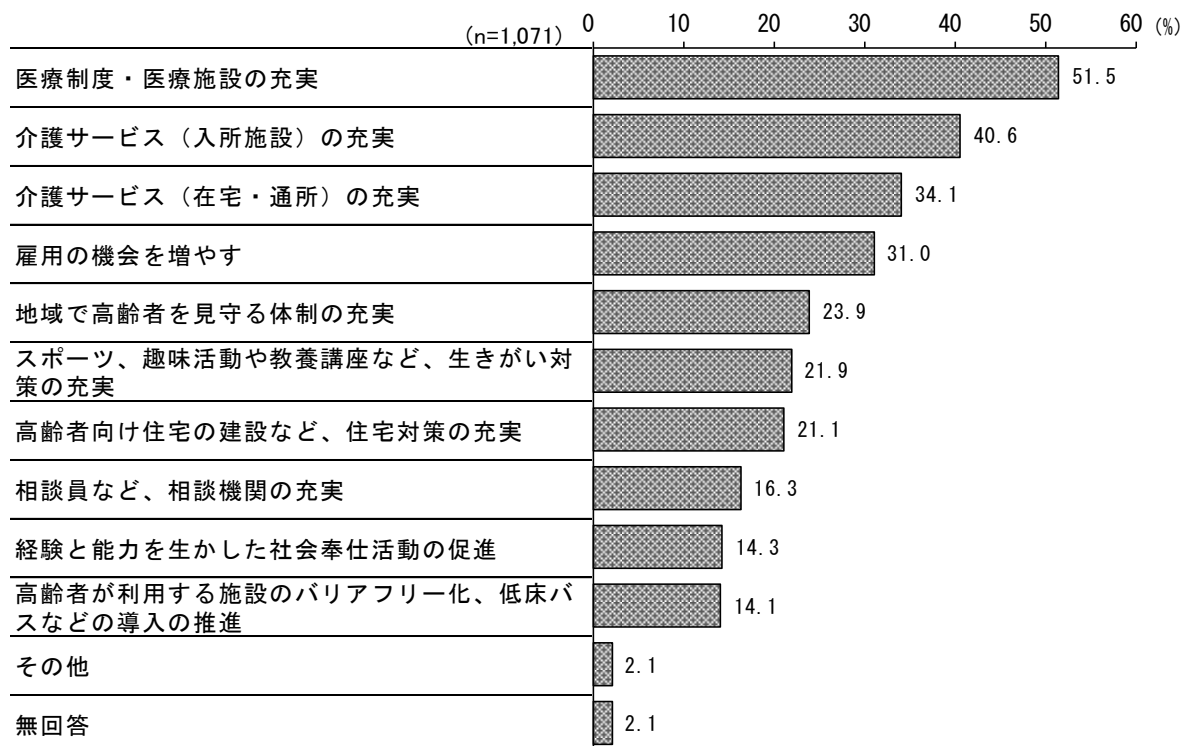
・「保育所、児童館、学童クラブなどの施設の充実」(66.0%)が6割半ばで最も多くなっている。次いで、「子育ての経済的負担の軽減(手当支給・医療費・保育料等)」(54.7%)、「保育時間延長・一時預かり・病後児保育などのサービスの充実」(43.9%)、「公園など、子どもの遊びのための環境整備」(34.3%)などの順に多くなっている。

(2) 老後について最も不安に感じること



・「健康」(31.4%)が3割以上と最も多く、次いで、「年金などの収入が安定して得られるかどうか」(31.0%)、「介護が必要になったとき、必要な介護を受けられるかどうか」(20.7%)、「ひとり暮らしになること」(5.6%)、「生きがいをもてるかどうか」(5.3%)などの順となっている。

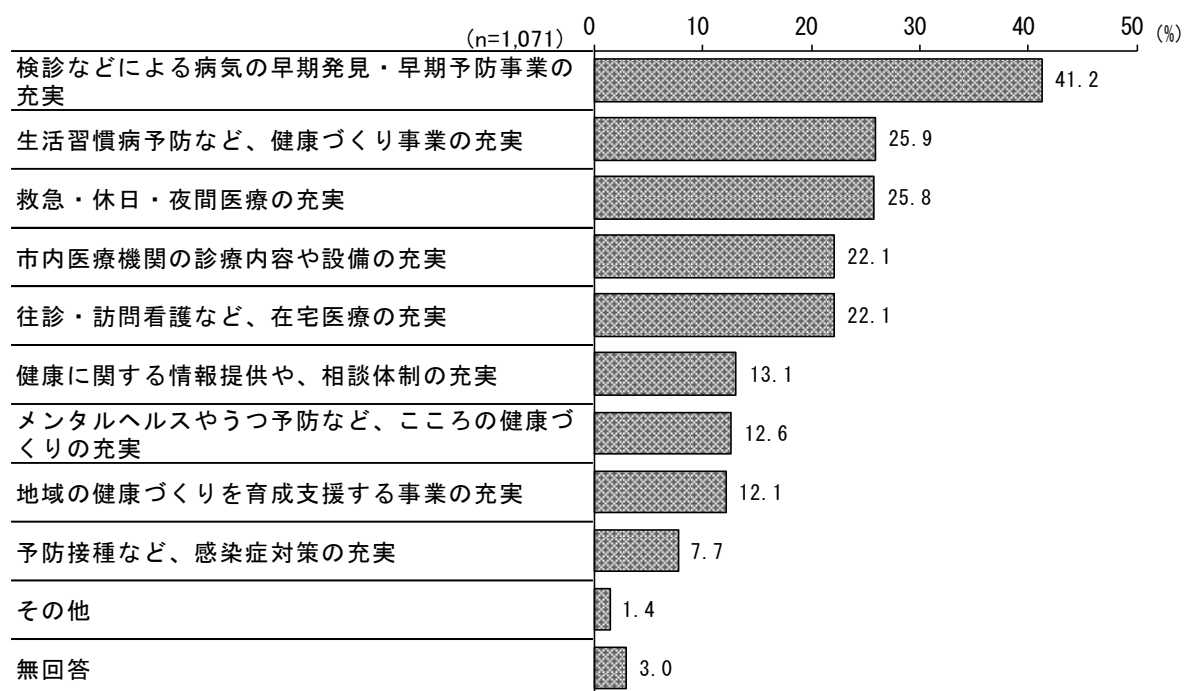
(3) 高齢者のために重要な施策



・「医療制度・医療施設の充実」(51.5%)が5割以上と最も多くなっている。次いで、「介護サービス（入所施設）の充実」(40.6%)、「介護サービス（在宅・通所）の充実」(34.1%)、「雇用の機会を増やす」(31.0%)、「地域で高齢者を見守る体制の充実」(23.9%)、「スポーツ、趣味活動や教養講座など、生きがい対策の充実」(21.9%)などの順で多くなっている。

13. 健康

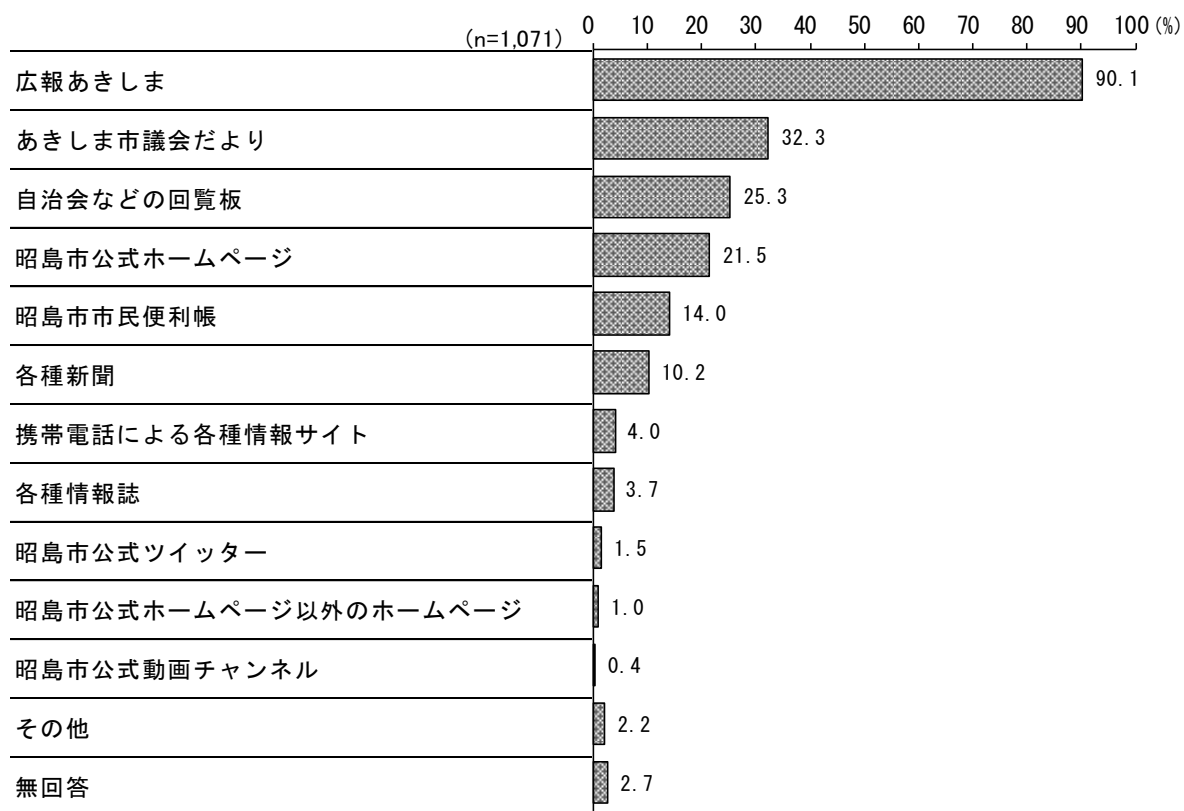
(1) 生涯健康で暮らしていくため市が力を入れるべき施策



・「検診などによる病気の早期発見・早期予防事業の充実」(41.2%)が4割以上と最も多くなっている。次いで、「生活習慣病予防など、健康づくり事業の充実」(25.9%)、「救急・休日・夜間医療の充実」(25.8%)、「市内医療機関の診療内容や設備の充実」と「往診・訪問看護など、在宅医療の充実」(ともに22.1%)、「健康に関する情報提供や、相談体制の充実」(13.1%)、「メンタルヘルスやうつ予防など、こころの健康づくりの充実」(12.6%)、「地域の健康づくりを育成支援する事業の充実」(12.1%)などの順で多くなっている。

14. 広報

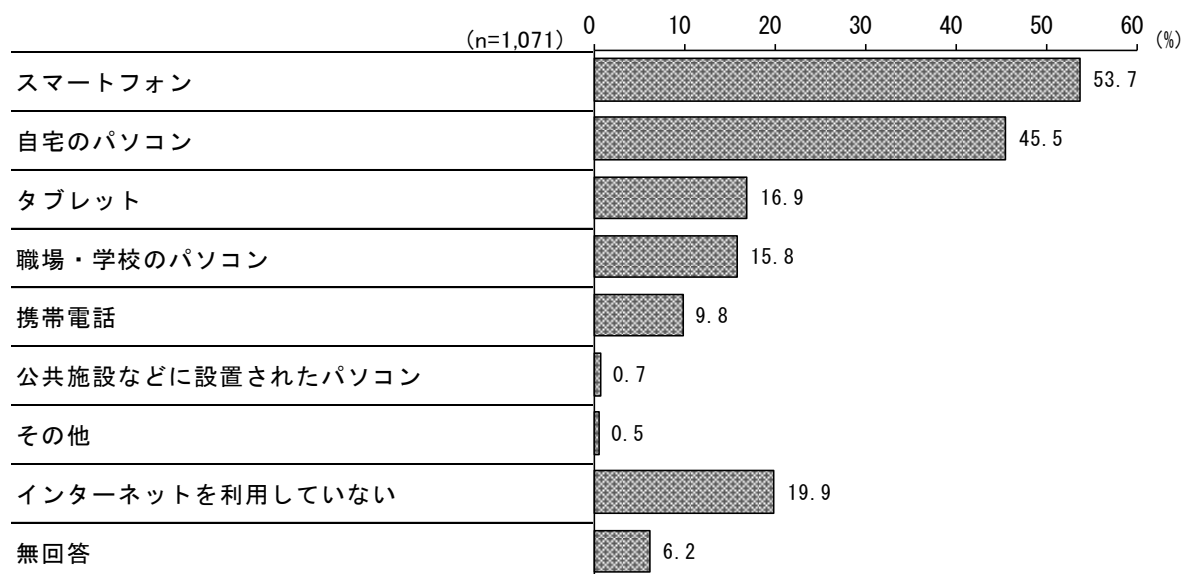
(1) 市に関わる情報の入手方法



・「広報あきしま」(90.1%)が約9割で最も多くなっている。次いで、「あきしま市議会だより」(32.3%)、「自治会などの回覧板」(25.3%)、「昭島市公式ホームページ」(21.5%)、「昭島市市民便利帳」(14.0%)、「各種新聞」(10.2%)などの順で多くなっている。

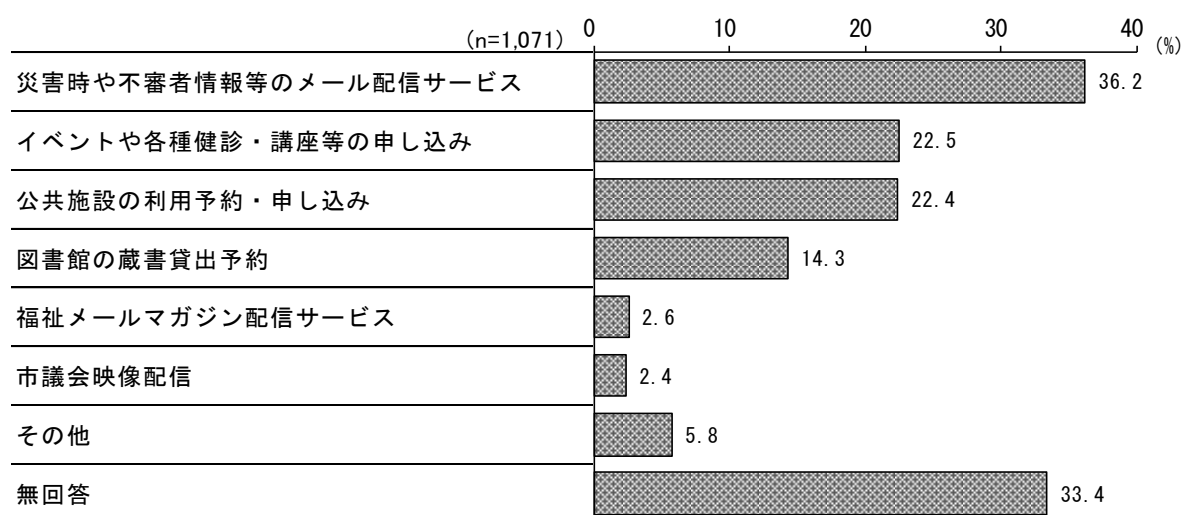
15. 情報化

(1) インターネットの利用環境



・「スマートフォン」(53.7%)が5割以上と最も多く、次いで、「自宅のパソコン」(45.5%)、「タブレット」(16.9%)、「職場・学校のパソコン」(15.8%)、「携帯電話」(9.8%)などの順となっている。また、「インターネットを利用していない」(19.9%)は約2割となっている。

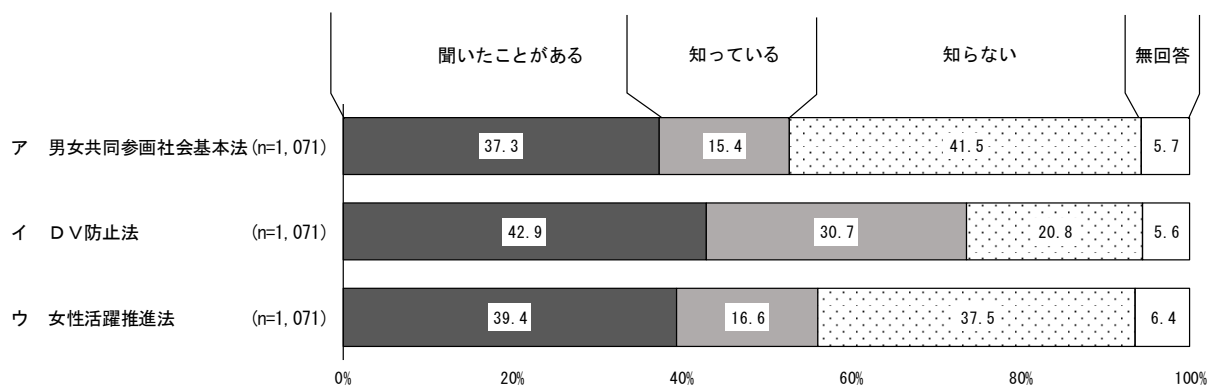
(2) 自治体提供のインターネット利用サービスの利用状況



・「災害時や不審者情報等のメール配信サービス」(36.2%)が4割近くで最も多くなっている。次いで、「イベントや各種健診・講座等の申し込み」(22.5%)、「公共施設の利用予約・申し込み」(22.4%)、「図書館の蔵書貸出予約」(14.3%)、「福祉メールマガジン配信サービス」(2.6%)、「市議会映像配信」(2.4%)の順に多くなっている。

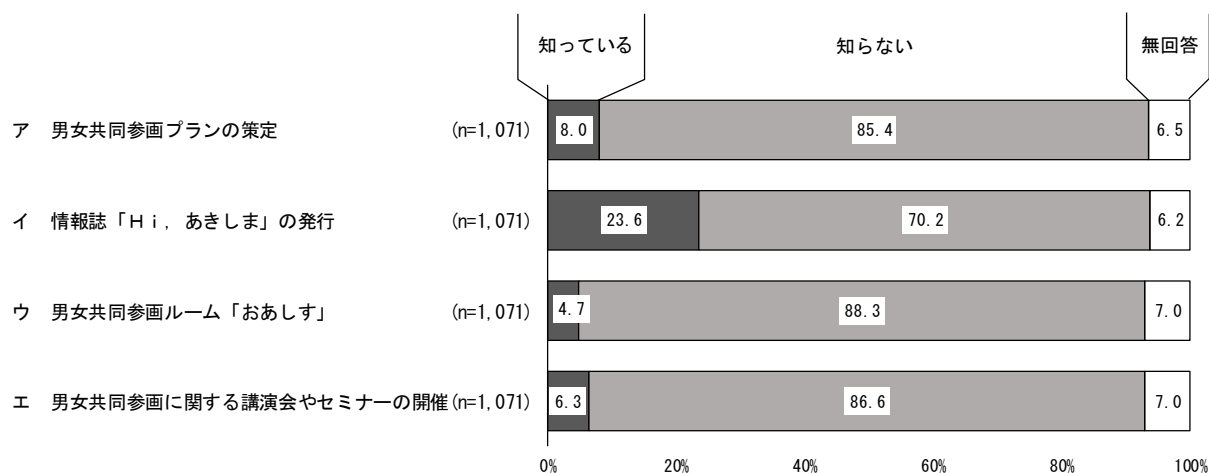
16. 男女共同参画

(1) 法律の認知度



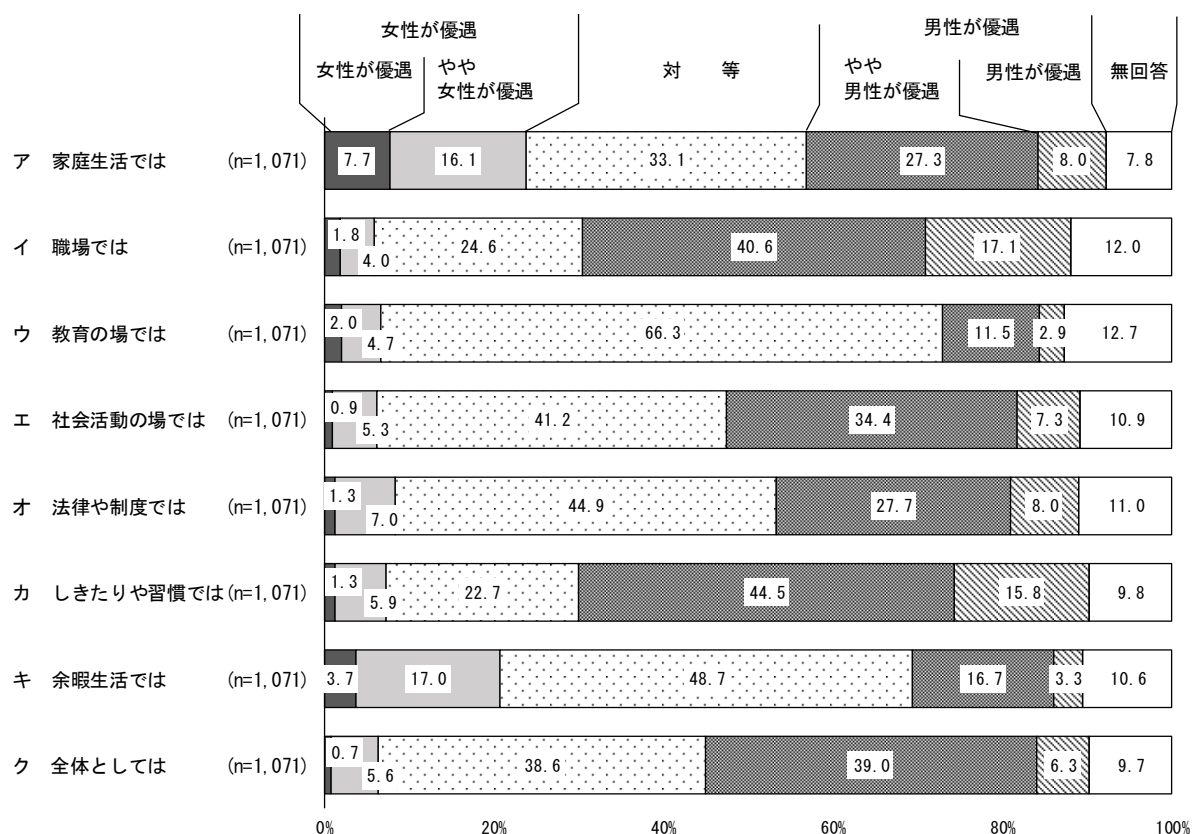
・「聞いたことがある」と「知っている」を合わせた割合は【DV防止法】(73.6%)は7割以上、【女性活躍推進法】(56.0%)は5割半ば、【男女共同参画社会基本法】(52.7%)が5割以上となっている。

(2) 男女共同参画事業の認知度



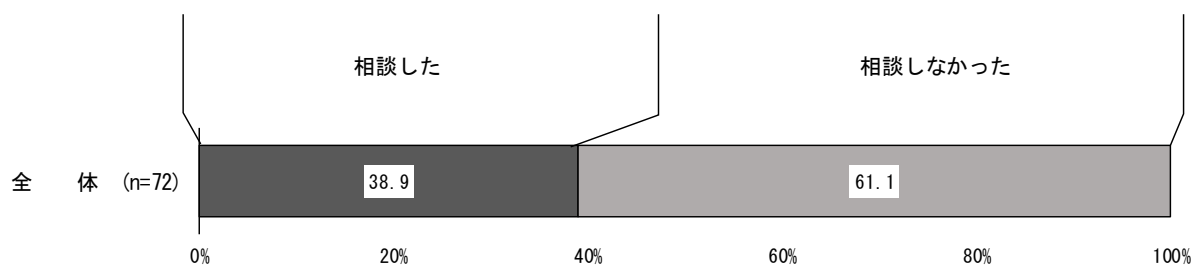
・「知っている」が多いのは【情報誌「Hi, あきしま」の発行】(23.6%)が2割以上で最も多く、次いで【男女共同参画プランの策定】(8.0%)、【男女共同参画に関する講演会やセミナーの開催】(6.3%)、【男女共同参画ルーム「おあしす」】(4.7%)の順となっている。

(3) 男女の地位



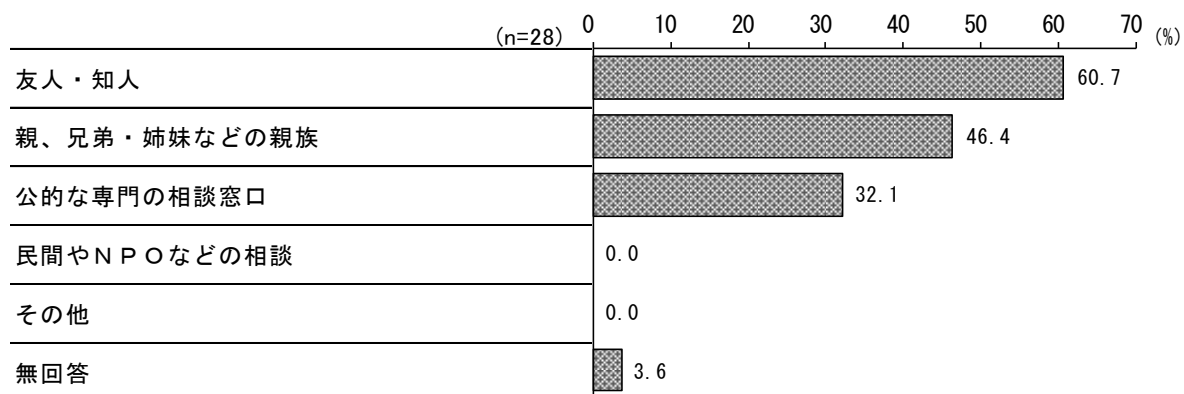
・「対等」と答えた割合は、【教育の場では】(66.3%)が7割近くと最も多い。次いで【余暇生活では】(48.7%)、【法律や制度では】(44.9%)、【社会活動の場では】(41.2%)の順で多くなっている。「やや男性が優遇」と「男性が優遇」を合わせた『男性が優遇』は【しきたりや習慣では】(60.3%)が約6割で最も多くなっている。一方、「やや女性が優遇」と「女性が優遇」を合わせた『女性が優遇』は【家庭生活では】(23.8%)が2割以上で最も多くなっている。

(4) DV被害の相談



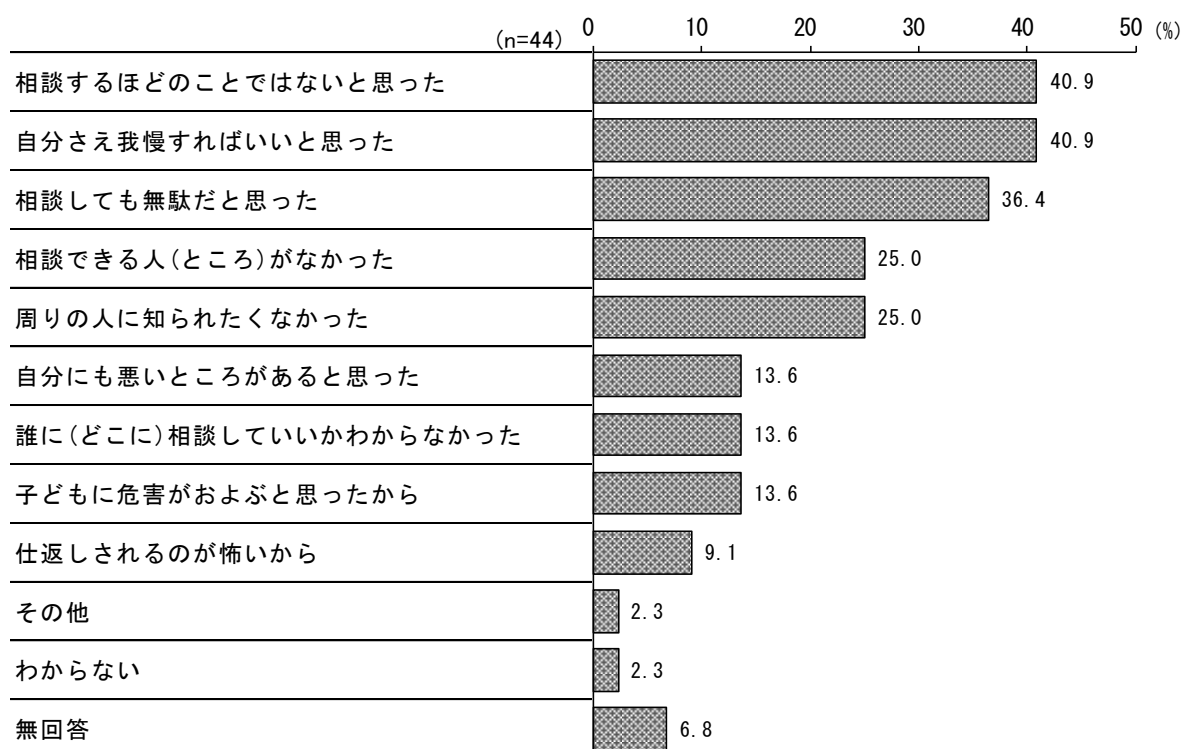
・「相談した」(38.9%)が4割近く、「相談しなかった」(61.1%)は6割以上となっている。

(5) DV被害の相談相手



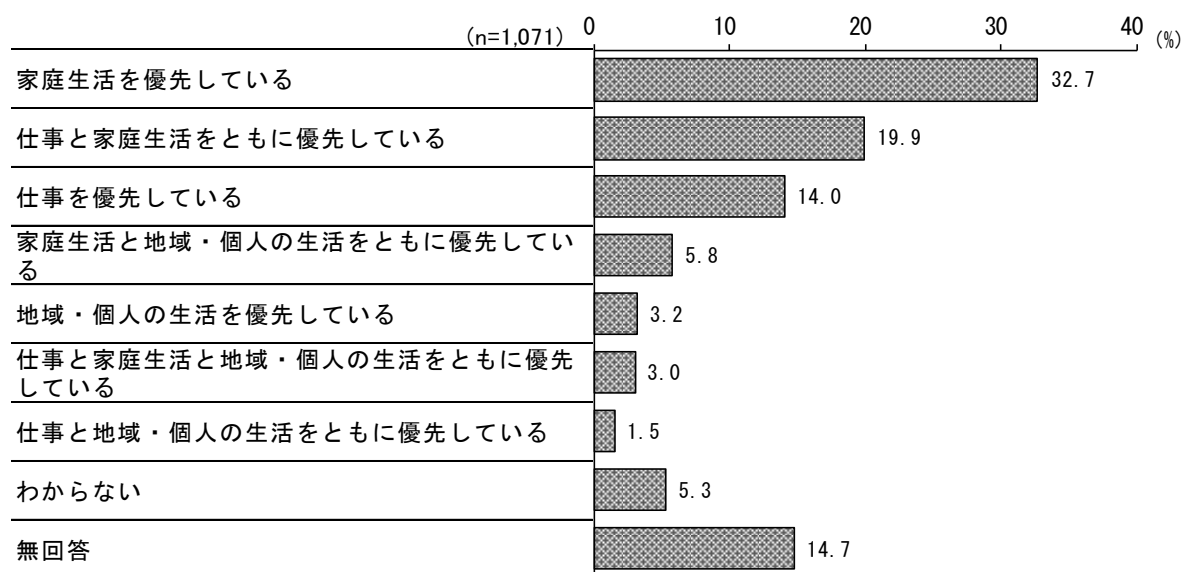
・「友人・知人」(60.7%)が約6割で最も多くなっている。次いで、「親、兄弟・姉妹などの親族」(46.4%)、「公的な専門の相談窓口」(32.1%)などの順となっている。

(6) DV被害の相談をしなかった理由



・「相談するほどのことではないと思った」と「自分さえ我慢すればいいと思った」(ともに40.9%)が約4割で最も多くなっている。次いで、「相談しても無駄だと思った」(36.4%)、「相談できる人(ところ)がなかった」と「周りの人に知られたくなかった」(ともに25.0%)、「自分にも悪いところがあると思った」と「誰に(どこに)相談していいかわからなかった」と「子どもに危害がおよぶと思ったから」(ともに13.6%)、「仕返しされるのが怖いから」(9.1%)などの順となっている。

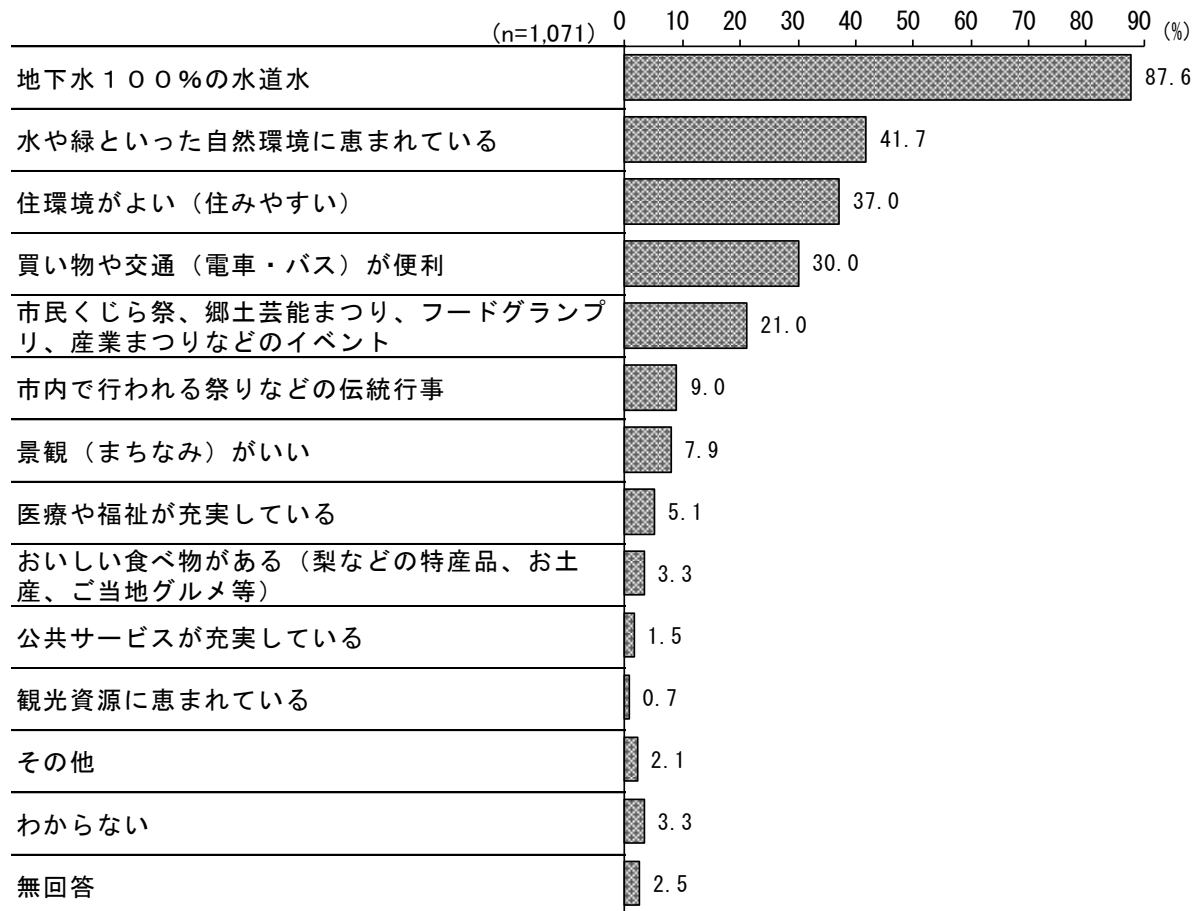
(7) 家庭生活の優先度



・「家庭生活を優先している」(32.7%)が3割以上で最も多くなっている。次いで、「仕事と家庭生活をともに優先している」(19.9%)、「仕事を優先している」(14.0%)、「家庭生活と地域・個人の生活をともに優先している」(5.8%)などの順となっている。

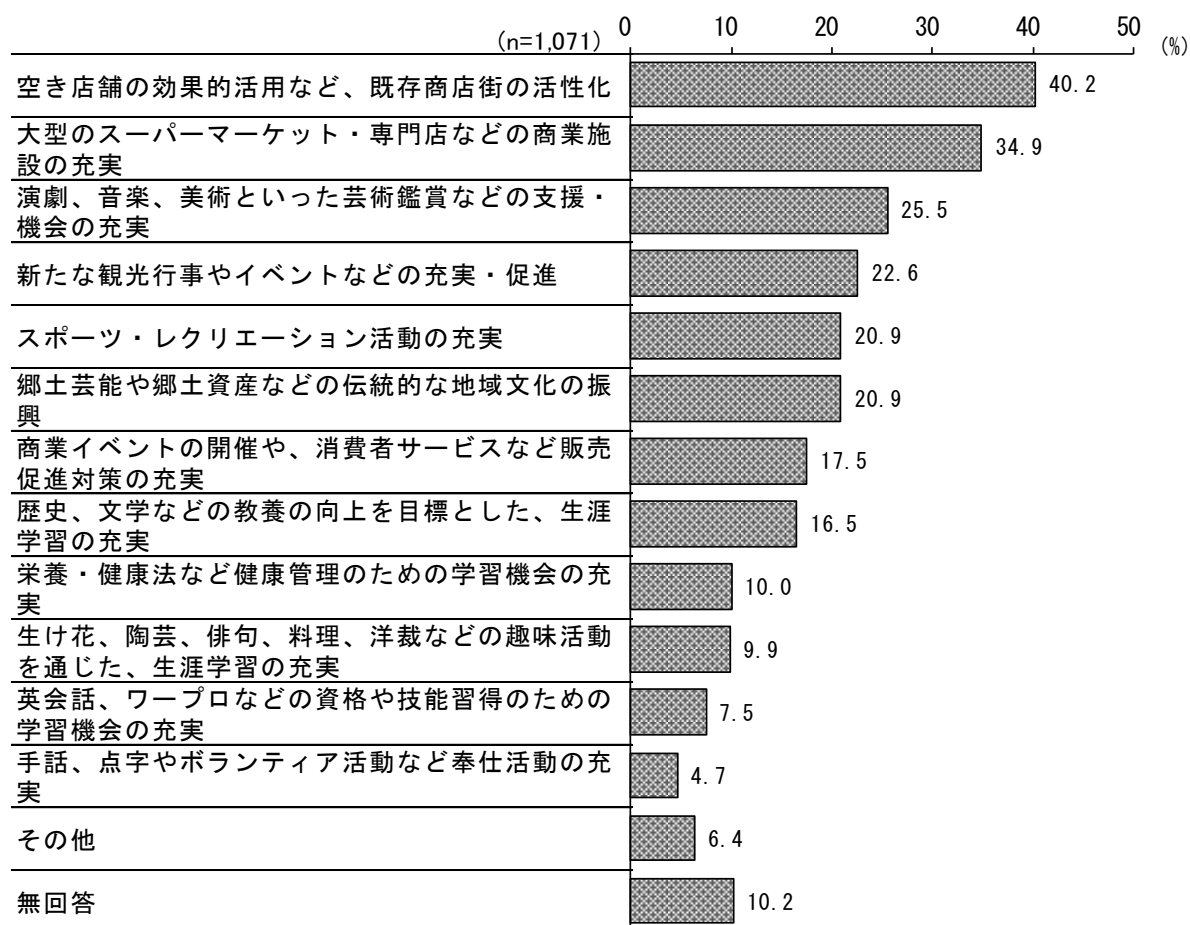
17. 市政

(1) 昭島の魅力



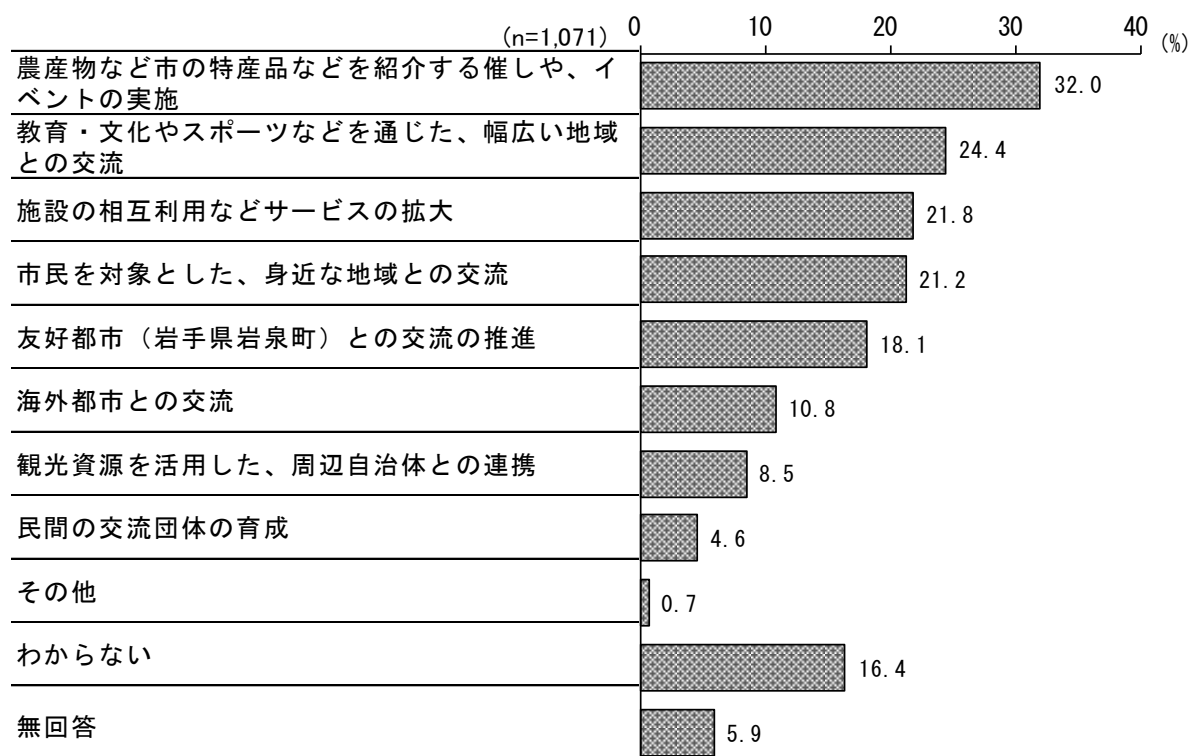
・「地下水100%の水道水」(87.6%)が9割近くと最も多く、次いで、「水や緑といった自然環境に恵まれている」(41.7%)、「住環境がよい（住みやすい）」(37.0%)、「買い物や交通（電車・バス）が便利」(30.0%)、「市民くじら祭、郷土芸能まつり、フードグランプリ、産業まつりなどのイベント」(21.0%)、「市内で行われる祭りなどの伝統行事」(9.0%)などの順に多くなっている。

(2) 訪れたい・住みたいと思わせるまちづくり



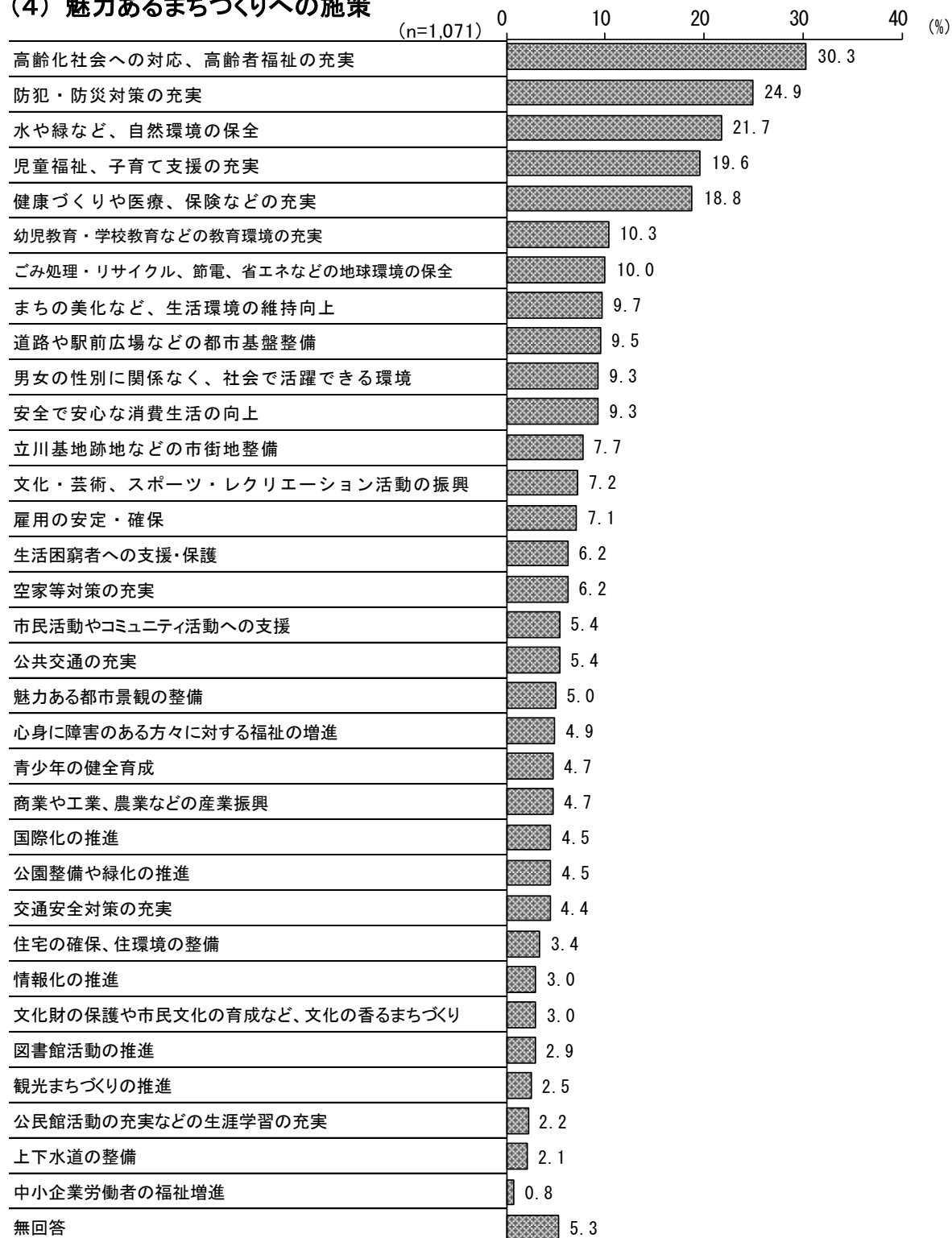
・「空き店舗の効果的活用など、既存商店街の活性化」(40.2%) が約4割で最も多くなっている。次いで、「大型のスーパーマーケット・専門店などの商業施設の充実」(34.9%)、「演劇、音楽、美術といった芸術鑑賞などの支援・機会の充実」(25.5%)、「新たな観光行事やイベントなどの充実・促進」(22.6%)、「スポーツ・レクリエーション活動の充実」と「郷土芸能や郷土資産などの伝統的な地域文化の振興」(ともに20.9%)などの順に多くなっている。

(3) 地域間交流・連携に必要な取り組み



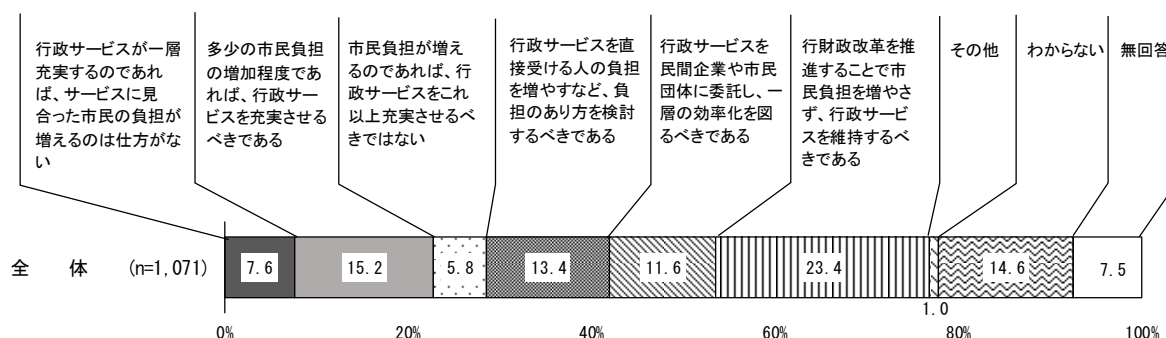
・「農産物など市の特産品などを紹介する催しや、イベントの実施」(32.0%)が最も多くなっている。次いで、「教育・文化やスポーツなどを通じた、幅広い地域との交流」(24.4%)、「施設の相互利用などサービスの拡大」(21.8%)、「市民を対象とした、身近な地域との交流」(21.2%)などの順に多くなっている。

(4) 魅力あるまちづくりへの施策



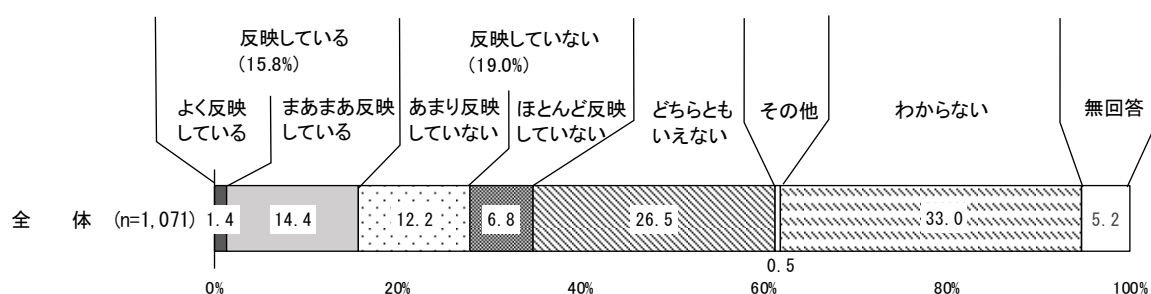
・「高齡化社会への対応、高齡者福祉の充実」(30.3%)が約3割で最も多くなっている。次いで、「防犯・防災対策の充実」(24.9%)、「水や緑など、自然環境の保全」(21.7%)、「児童福祉、子育て支援の充実」(19.6%)、「健康づくりや医療、保険などの充実」(18.8%)、「幼児教育・学校教育などの教育環境の充実」(10.3%)、「ごみ処理・リサイクル、節電、省エネなどの地球環境の保全」(10.0%)などの順で多くなっている。

(5) 行政サービスの水準と負担



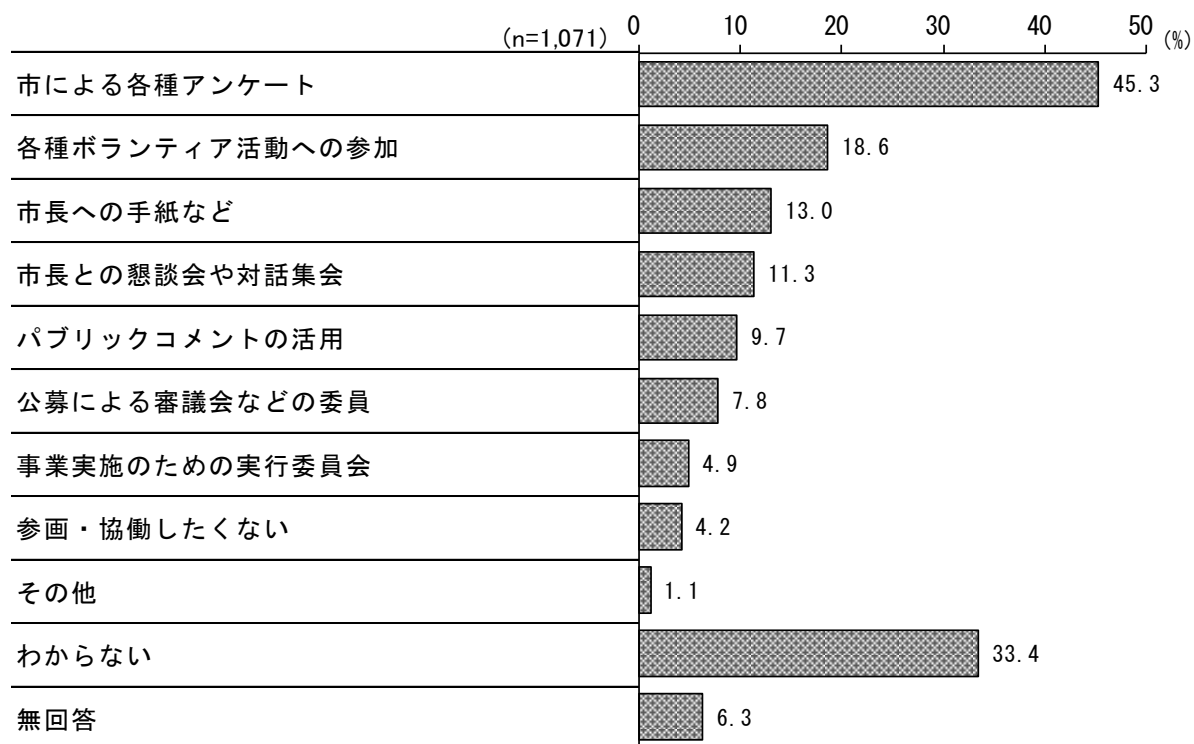
・「行財政改革を推進することで市民負担を増やさず、行政サービスを維持するべきである」(23.4%)が2割以上で最も多い。次いで、「多少の市民負担の増加程度であれば、行政サービスを充実させるべきである」(15.2%)、「行政サービスを直接受ける人の負担を増やすなど、負担のあり方を検討するべきである」(13.4%)、「行政サービスを民間企業や市民団体に委託し、一層の効率化を図るべきである」(11.6%)、「行政サービスが一層充実するのであれば、サービスに見合った市民の負担が増えるのは仕方がない」(7.6%)、「市民負担が増えるのであれば、行政サービスをこれ以上充実させるべきではない」(5.8%)の順で多くなっている。

(6) 市政への市民の声の反映



・「よく反映している」(1.4%)と「まあまあ反映している」(14.4%)を合わせた『反映している』(15.8%)は1割半ばとなっている。一方、「あまり反映していない」(12.2%)と「ほとんど反映していない」(6.8%)を合わせた『反映していない』(19.0%)は約2割となっている。また、「どちらともいえない」(26.5%)は3割近くとなっている。

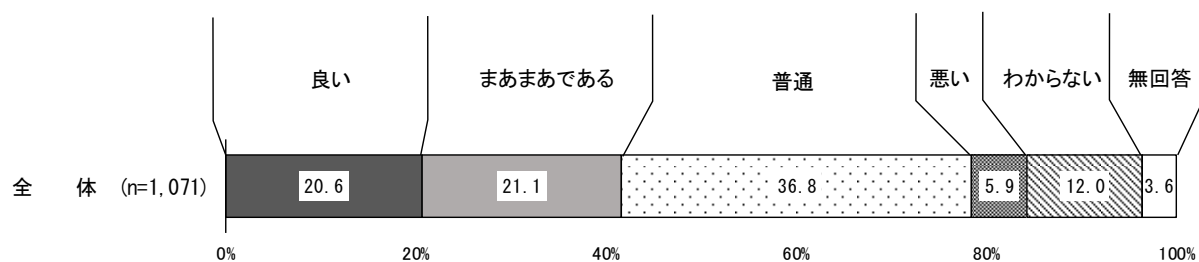
(7) 市政への参画・協働のかかわり方



・「市による各種アンケート」(45.3%)が4割半ばで最も多くなっている。次いで、「各種ボランティア活動への参加」(18.6%)、「市長への手紙など」(13.0%)、「市長との懇談会や対話集会」(11.3%)、「パブリックコメントの活用」(9.7%)などの順で多くなっている。

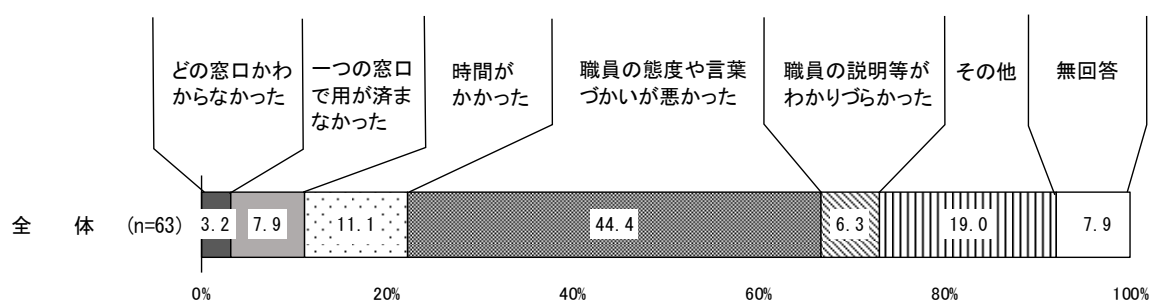
18. 市役所

(1) 市役所の窓口サービスについての評価



・「普通」(36.8%)が4割近くと最も多くなっている。次いで、「まあまあである」(21.1%)、「良い」(20.6%)などの順となっている。一方、「悪い」(5.9%)は1割未満となっている。

(2) 窓口サービスが悪いと感じた理由



・「職員の態度や言葉づかいが悪かった」(44.4%)が4割半ばと最も多くなっている。次いで、「時間がかかった」(11.1%)、「一つの窓口で用が済まなかった」(7.9%)、「職員の説明等がわかりづらかった」(6.3%)、「どの窓口かわからなかった」(3.2%)の順となっている。

昭島市 市民意識調査 概要版

平成 30 年 2 月

発行：昭島市企画部秘書広報課

〒196-8511 東京都昭島市田中町一丁目 17 番 1 号

電話 042-544-5111 (代表)

調査実施：株式会社 T D S
